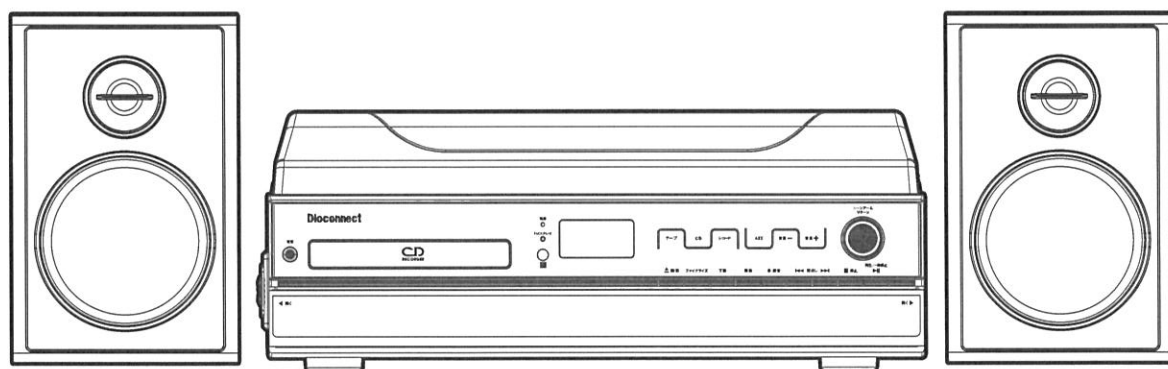
CD-R 録音対応
レコードオーディオシステム

Dioconnect DRA-101

取扱説明書

■ご使用の前に
この度は、本製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
正しくご使用して頂くために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読み頂き、機能を十分にいかして正しくご愛用下さい。お読みになった後は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお役立て下さい。

※本書の内容を無断で転載や複写をしないでください。
※記載の外観および仕様は改良のため予告なく変更することがあります。
※本書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
※当社では常に製品の品質の改善を行っており、お客様のご購入時期によりましては同一製品の中にも多少の差があるものがございますがご了承ください。
※本書の内容につきましては、将来予告なしに変更することがあります。

目次

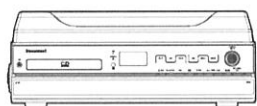
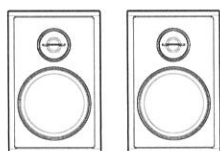
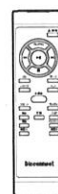
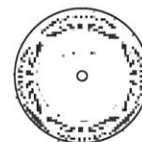
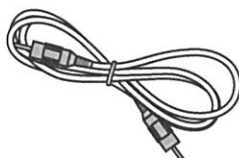
お使いになる前に必ずお読みください。

はじめに

取扱説明書について

本取扱説明書は、本製品の操作方法について説明しています。

セット内容

本製品のパッケージ内には以下のセット内容が含まれます。ご確認ください。
※イラストと実際の形状は、若干異なる場合があります。

お使いになる前に必ずお読みください。

安全上の注意

○ご使用の前に、あなたの健康と安全を守り、火災や感電などによる事故を未然に防ぐために、この「安全上の注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。

次の警告表示は、注意事項を守らなかった場合におこりうる事故の程度を表します。

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(※1)を負うことが想定されるもの

取り扱いを誤った場合、使用者が傷害(※2)を負うことが想定されるもの、または物的損害（※3）の発生が想定されるもの

※1：重傷とは、失明やケガ、火傷（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院や長期にわたる通院を要するものを指します。
※2：傷害とは、治療に入院や長期にわたる通院を要さないケガや火傷、感電などを指します。
※3：物的損傷とは、家屋、家財、および家畜やペットなどにかかわる拡大損害を指します。

次の記号は、その注意事項の内容を表します。

禁止（してはいけないこと）を表します。
具体的な内容については、記号の中、もしくは付近にイラストや文章にて表します。

指示する行為の強制（必ずしなければならないこと）を表します。
具体的な内容については、記号の中、もしくは付近にイラストや文章にて表します。

注意（警告含む）を表します。
具体的な内容については、記号の中、もしくは付近にイラストや文章にて表します。

警告 異常や故障したとき

電源プラグを抜く

○煙が出たり、変なにおいがする場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電などの原因となります。
○内部に水や異物が入ってしまった場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電などの原因となります。
○本体を落としたり、破損した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電などの原因となります。
○電源コードが傷んだり、電源プラグが異常に熱くなった場合は、電源プラグが冷えたことを確認し、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電などの原因となります。

上記の問題が発生した場合は、電源プラグを抜いた後、サポートセンターにご連絡ください。

お使いになる前に必ずお読みください。

安全上の注意

設置をされるとき

水濡れ禁止

○屋外や浴室、シャワー室など、水がかかる恐れのある場所には設置をしないでください。火災や感電などの原因となります。

指示

○電源コードは、家庭用交流100Vのコンセントに接続してください。交流100V以外を使用すると、火災や感電などの原因となります。

○静電気の発生しやすい場所に設置して使用する場合は十分注意してください。本製品の故障や感電、火災の発生するおそれがあります。静電気防止マットなどを使用して静電気の発生を防ぐ措置をとるか、静電気の発生しやすい場所への設置を避けてください。

禁止

○ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所や振動のある場所に置かないでください。　本体が落下してケガの原因となります。

上乗せ禁止

○上に物を置かないでください。
金属類や、花瓶、コップ、化粧品などの液体が入った場合、火災や感電の原因となります。重いものなどが置かれて落下した場合、ケガの原因となります。

ご使用になるとき

分解禁止

○修理、改造、分解をしないでください。火災や感電の原因となります。
点検や調整、修理はサポートセンターにご依頼ください。

異物挿入禁止

○本製品内部に異物を入れないでください。
金属類や紙などの燃えやすい物が内部に入った場合、火災や感電などの原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

接触禁止

○雷が鳴りだしたら、本製品には一切触れないでください。感電の原因となります。

禁止

○電源コードについて
・傷つけたり、延長するなどの加工をしたり、加熱をしないでください。
・引っ張ったり、重たいものを載せたり、挟んだりしないでください。
・無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしないでください。
これらは火災や感電の原因となります。

お使いになる前に必ずお読みください。

安全上の注意

⚠警告 お手入れについて

禁止

○電源プラグの端子や取り付け面にゴミやホコリが付着している場合は、電源プラグを抜いて、ゴミやホコリを取ってください。
電源プラグの絶縁低下によって、感電の原因となります。

⚠注意 設置をされるとき

禁止

○温度の高い場所に置かないでください。
直射日光の当たる場所やストーブのそばなどに置くと、火災や感電の原因となります。また、部品の劣化や破損の原因となります。
○高温多湿の環境（お風呂場など）や、油煙、ホコリの多い場所に置かないでください。
本製品の故障や、感電や火災の発生するおそれがあります。
○換気の悪い場所に設置しないでください。熱がこもり、本製品の変形や故障、火災の発生するおそれがあります。
・壁に押し付けないください。
・押し入れや箱の中など、風通しの悪い場所に押し込まないでください。
・テーブルクロスやカーテンなどを掛けたりしないでください。
・じゅうたんやふとんの上に置かないでください。
・仰向け、横倒し、逆さまにしないでください。

指示

○移動させる場合は、電源プラグや外部との接続コードを外してください。電源プラグを抜かずに運ぶと、電源コードが傷つき、火災や感電などの原因となることや、接続コードなどを外さずに運ぶと、本製品が転倒してケガの原因となることがあります。

⚠注意 ご使用になるとき

引っ張り禁止

○電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張って抜かないでください。電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき、火災や感電などの原因となります。電源プラグを持って抜いてください。

濡れ手禁止

○濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

お使いになる前に必ずお読みください。

安全上の注意

○旅行などで長期間ご使用にならない場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。万一故障してしまった場合、火災の原因となることがあります。

○ディスクトレイに手を入れないでください。指を挟み、ケガの原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
○ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスク、レコードは使用しないでください。本製品の故障の原因となります。
○レコードの回転中は、レコードに直接指で触れたりしないでください。ケガの原因となるおそれがあるほか、本製品の故障、レコードの損傷のおそれがあります。
○電源を入れる前には音量を最小にしてください。また、接続している外部機器の音量を最小にしておいてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となることがあります。
○本製品から異音が出た際は使用を中止してください。聴力に悪い影響を与える恐れや、本製品の故障の原因となる恐れがあります。
○音量を上げすぎないようにご注意ください。大きな音量で長時間続けて音声を聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
○ヘッドフォン、イヤフォンを使用する場合は、音量を上げすぎないようにご注意ください。大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
○リモコンに使用する電池について
・極性〔(+)と(—)〕の方向を間違えて挿入しないでください。
・充電・加熱・分解・ショートさせたり、火の中に入れたりしないでください。
・電池に表示されている【使用推奨期限】を過ぎていたり、使い切って残量のない電池は、リモコンに入れたままにしておかないでください。液漏れの原因となります。
・新しい電池と古い電池、種類の違う電池を一緒に使わないでください。
これらを守らないと、液もれや破裂などにより、火傷やケガの原因となることがあります。もし液体が皮膚や衣類についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。液体が目に入った場合は、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。器具に付着した場合は、液体に直接触れないで拭き取ってください。
○ご使用になるとき本製品やコードなどを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災や感電などの原因になることがあります。
○本製品の上に重量物を載せたり、本来の目的以外に使用しないでください。ケガや故障の原因になります。
○本製品に衝撃を与えないでください。ケガの原因になることがあります。
○本製品を持ち上げる際は、両手で水平に持ち上げてください。無理な体勢で取り扱うと、落下して本製品が故障するおそれがあるほか、ケガなどの原因となるおそれがあります。

○他の電気機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどの機器がある場合、雑音が入ることがあります。
○その場合は下記のように対処してください。
・他の電気機器からできるだけ離してください。
・テレビやラジオ機器などのアンテナの向きを変えてください。
・コンセントを別々にしてください。

お使いになる前に必ずお読みください。

使用上のお願い

取り扱いに関して

●引っ越しなどで遠くへ運ぶ場合は、傷がつかないように本製品の外装箱などをご使用ください。
●殺虫剤や揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変色したり、塗装がはげたりするなどの原因となります。
●長時間ご使用になっていると本体が多少熱くなりますが、故障ではありません。
●普段使用しない時は、必ず電源を切っておいてください。
●長時間使用しない時は、機能に支障をきたす場合がありますので、時々電源を入れて、使用してください。

置き場所に関して

●本製品は水平な場所に設置してください。ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所で使用しないでください。部品などが外れるなどして、故障の原因となります。
●本製品をテレビやラジオ、ビデオなどの機器の近くに置く場合には、本製品で再生中に、画像や音声に悪い影響を与えることがあります。万一、このような症状が発生した場合はテレビやラジオ、ビデオなどの機器から離してください。

お手入れに関して

●キャビネットや操作パネル部分などの汚れは柔らかい布で軽く拭き取ってください。
●汚れがひどい場合は、布を水で薄めた中性洗剤に浸し、よく絞ってから拭き取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジンやシンナーは絶対使用しないでください。変色したり、塗装がはげたりするなどの原因となります。
●化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。

結露（露付き）に関して

●結露は本製品を傷めます。 下記をよくお読みください。
●結露は以下の状況などでよく生じます。
・本製品を寒いところから、急に暖かいところに移動した時。
・暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなど冷風が直接あたる場所で使用した時。
・夏季に、冷房のきいた部屋、車内などから急に温度、湿度の高いところに移動して使用した時。
・湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋で使用した時。
※結露が生じそうな場合は、本製品をすぐにご使用にならないでください。
●結露が生じた状態で本製品を使用すると、レコードやディスク、各部品を傷めることがあります。レコードやディスク、カセットテープなどを取り外し、本製品の電源プラグをご家庭のコンセントに接続し電源を入れておくと本製品が暖まるので、2～3時間程度で水滴をとります。または、コンセントに接続しておくと結露が生じにくくなります。

日本国内専用

●本製品を使用できるのは日本国内のみです。 外国では電源電圧等が異なりますので使用することができません。

ディスクの取り扱い

本製品で再生できるディスク

本製品では、下記の種類のディスクを再生することができます。

用途	ディスクの種類	記録内容
再生専用	音楽CD	音　声
再生専用	CD-R/RW	音　声

●上記のディスク以外は再生できません。
●上記のディスクでも、規格外のディスクや、傷や汚れ、記録状態や記録機器、記録ソフトの特性等により、再生できないことがあります。
●円形以外の特殊な形状(カード型等)のディスク、紙やシールの貼られたディスクは再生できません。
●パソコン用のデータCD-ROMなど音楽用ではないディスクは使用しないでください。異音の発生などスピーカー、アンプの故障の原因となります。
●複製制限機能(コピーコントロール機能)のついた音楽CDの中には、正式なCD規格に合致しないものがあります。それらは特殊なディスクのため、本製品で再生することができない場合があります。

注意

●ディスクの種類・記録されたデータ・設定・ディスクサイズ・形式・記録状態等によっては、操作や再生などが行えない場合があります。

ディスクの取り扱い

レンタルCDについて

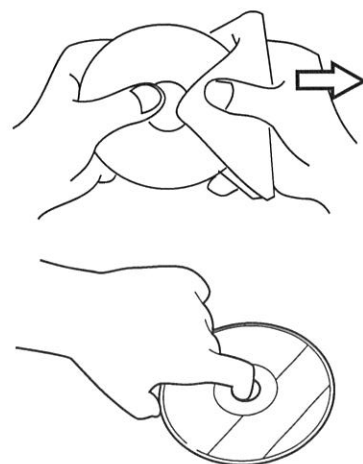
●CDにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどののりがはみ出していたり、剥がしたあとがあるもの、また、飾り用のシールなどを貼ったものはご使用にならないでください。CDが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽CDの再生について

●複製制限機能（コピーコントロール機能）のついた音楽CDの中には、正式なCD規格に合致しないものがあります。それらは特殊なディスクのため、本製品では再生できない場合があります。

ディスクの取り扱いについて

●ディスクについた指紋やホコリなどの汚れは、音質低下の原因となります。柔らかい布で、ディスクの中心から外側に向かって軽く拭き取り、いつもきれいにしておいてください。
●よごれがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で軽く拭き取り、乾いた布で仕上げてください。
●再生面には手を触れないでください。

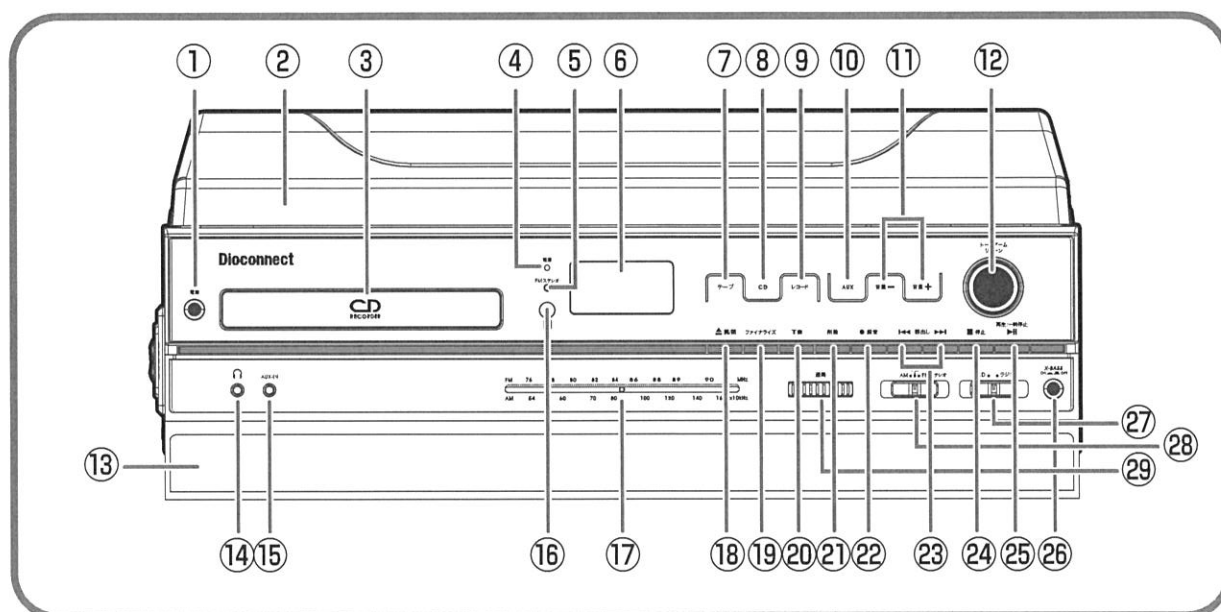
※ディスクに紙やシールを貼らないでください。
※シンナーやベンジン、アナログ式レコード専用のクリーナー、静電気防止剤などは絶対に使用しないでください。ディスクを痛める原因となります。
※鉛筆やボールペンなどで字を書かないでください。
※傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
※市販のラベルプリンターでディスク面に印刷をしたCDは使わないでください。

ディスクの保管方法

●直射日光の当たる場所や、湿度の高い場所には保管しないでください。
●浴室や加湿器のそばなど、湿気やほこりの多い場所には保管しないでください。
●ディスクは必ず専用のケースに入れて保管してください。専用ケースに入れずに重ねたり、立てかけたりすると変形する原因となります。

著作権法上の注意

●あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

本体の各部名称

本体正面 1

① **電源ボタン**
電源のオン/オフをします。

② **ダストカバー**
レコードへのほこりの付着を防ぎます。

③ **CDトレイ**
CD、CD-R/-RWを挿入します。

④ **電源ランプ**
電源をオンにするとランプが点灯します。

⑤ **FMステレオランプ**
FMステレオに切り替えるランプが点灯します。
※電波が弱い場合は点灯しない場合があります。

⑥ **ディスプレイ**
本製品の状態を表示します。

⑦ **カセットテープモードボタン**
カセットテープモードにします。

⑧ **CDモードボタン**
CDモードにします。

⑨ **レコードモードボタン**
レコードモードにします。

⑩ **外部入力(AUX)モードボタン**
外部入力モードにします。

⑪ **音量(+/−)ボタン**
音量を調整します。

⑫ **トーンアームリターンボタン**
トーンアームを自動でアームレストに戻します。

⑬ **パネルカバー(開閉可)**
正面下部のカバーです。※上記イラストはカバーを開けた状態です。

⑭ **ヘッドフォン端子**
ヘッドフォンを使用する際にこの端子に接続します。

⑮ **音声入力(AUX-IN)端子**
本製品に外部機器からの音声を入力する際に、この端子に接続します。

⑯ **リモコン受光部**
リモコンの信号を受ける場所です。

⑰ **選局インジケーター**
ラジオモードに切り替えるとランプが点灯します。選局の目安となります。

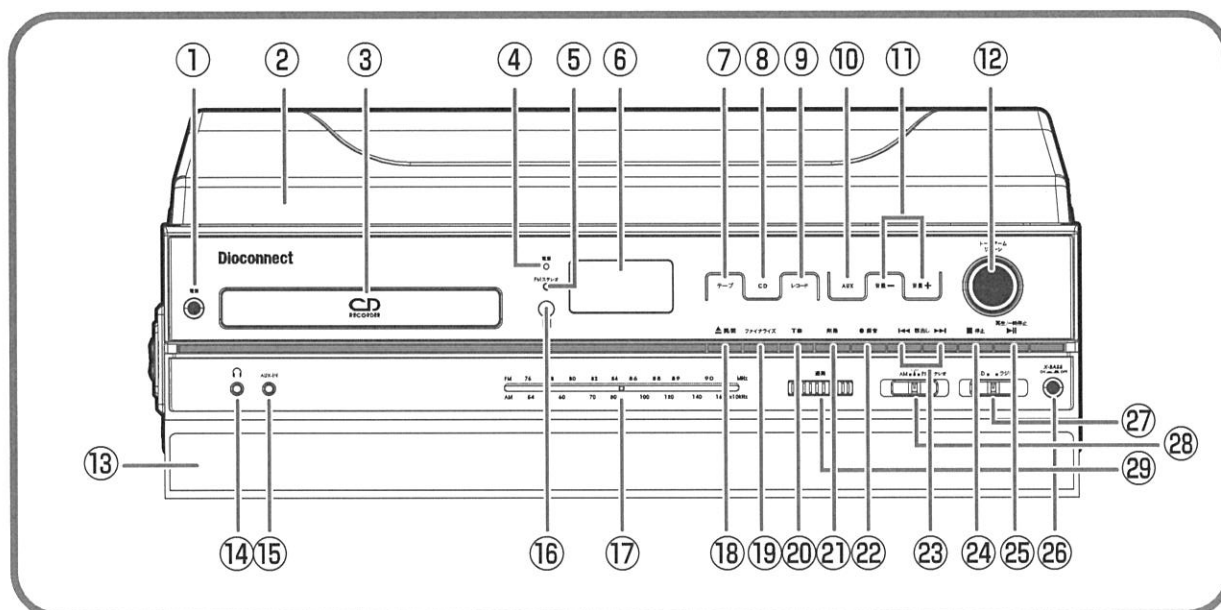
⑱ **CDトレイ開閉ボタン**
CDトレイを開閉します。

⑲ **ファイナライズボタン**
録音したCD-R/-RWをファイナライズします。

⑳ **TS(トラックセパレーション)ボタン**
録音中にこのボタンを押すと、ボタンを押した箇所でトラックを分割することができます。

次のページに続きます

本体の各部名称

本体正面 2

㉑ 削除ボタン
CD-RWのトラックを削除したり、ファイナライズを解除することができます。

㉒ 録音(●)ボタン
レコード、カセットテープ、外部入力からCD-R/-RWへ録音することができます。

㉓ 頭出し(I◀◀ / ▶▶I)ボタン
CDモードで、前･次のトラックの頭出しをします。

㉔ 停止(■)ボタン
CDモードで、再生を停止します。また、レコード、カセットテープ、外部入力の録音の停止をします。

㉕ 再生/一時停止(▶II)ボタン
CDモードで、CDを再生します。CDの再生中にボタンを押すと、再生が一時停止します。

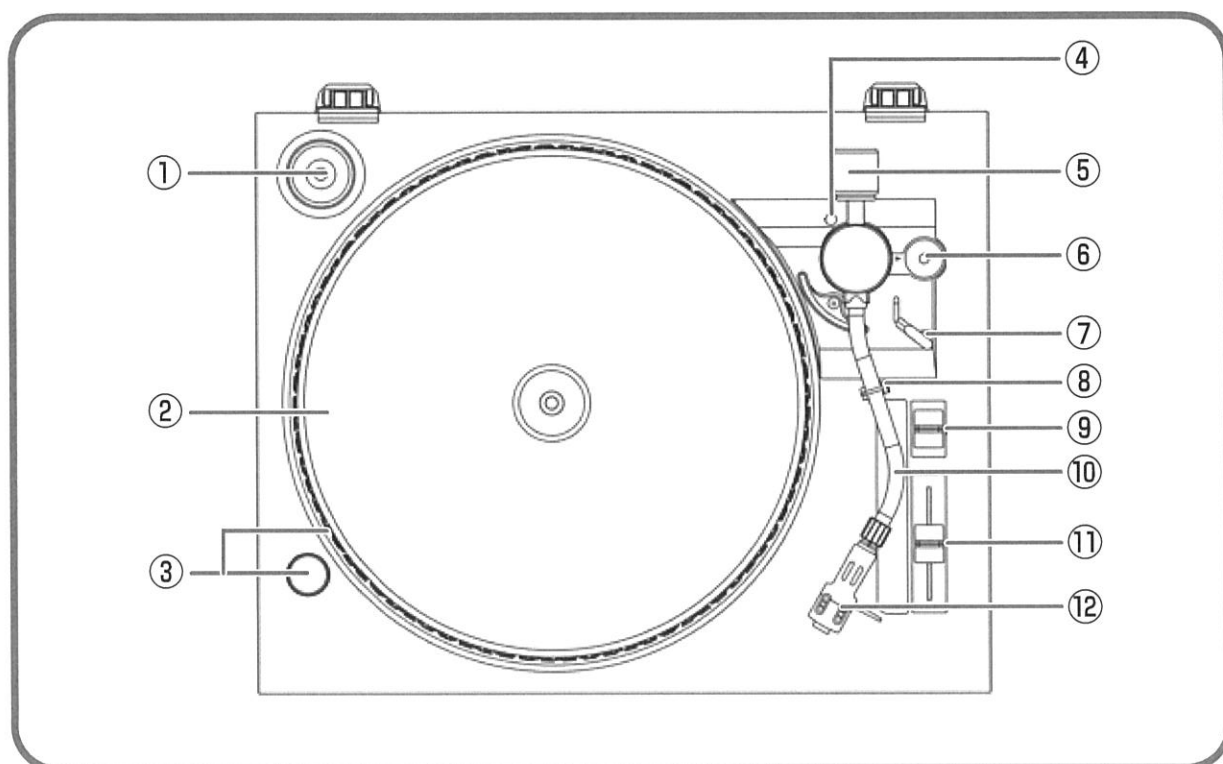
㉖ X-BASSボタン
このボタンをオンにすると、重低音を強調したサウンドを楽しめます。

㉗ CD/ラジオ切り替えセレクター
CDモードかラジオモードに切り替えます。
ここでの「CD」は録音先を意味します。ラジオ以外のモードを選択する際は「CD」に切り替えてください。

㉘ ラジオ切り替えセレクター
AMラジオ/FMラジオ/FM(ステレオ)ラジオの切り替えをします。

㉙ 選局つまみ
ラジオの選局をします。

本体の各部名称

本体上面

① **ディスクスタビライザー**
EP盤を再生する場合、レコードを固定するためにレコードの下にセットします。

② **ターンテーブル**
レコードをセットします。

③ **ストロボイルミネーター**
ターンテーブルの円周上の刻まれたストロボを照射します。ターンテーブルの回転数を変化させた結果を、ターンテーブルの円周上の刻まれたストロボの動きで読みとることができます。

④ **調整ネジ(ラバーカバー付)**
トーンアームの停止位置を調整します。
※ラバーカバーはなくさないように注意してください。

⑤ **カウンターウェイト**
トーンアームの水平をとり、カートリッジ、針先に適正な加重をかけるためのオモリです。左右に回転させて希望の針圧になるよう数値を調整します。

⑥ **アンチスケーティング**
針先でレコード盤をトレースするとき、針先の水平方向の力がレコード盤の溝の接線方向になるよう調整します。

⑦ **キューイングレバー**
トーンアームを上下に動かします。針先をレコード盤上の乗せる際、キューイングレバーでトーンアームを予め上げておいてから針先をレコード盤上の希望の位置まで移動させ、キューイングレバーでトーンアームを下げます。この操作により針先やレコード盤の傷みを防止することができます。

⑧ **アームレスト**
トーンアームを乗せて固定します。使用時は固定フックを外します。

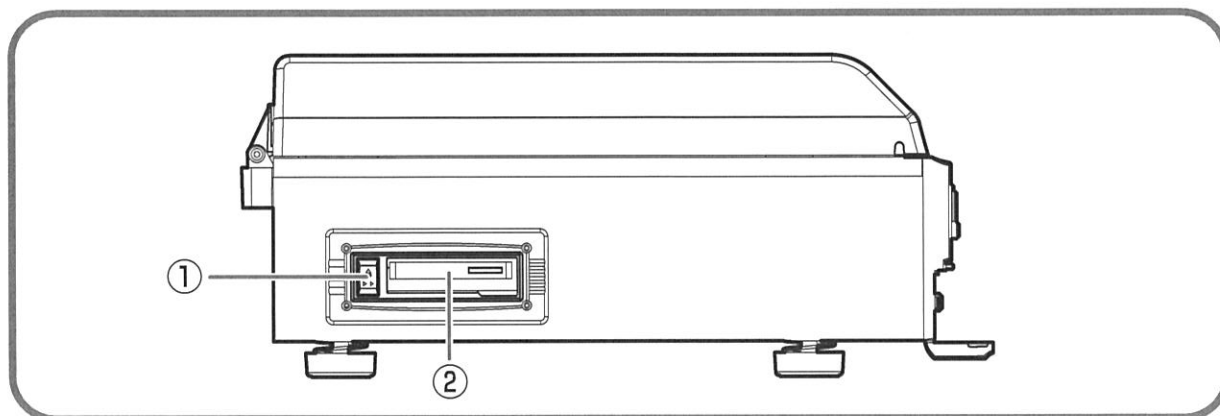
⑨ **レコード回転数切り替えスイッチ**
レコードの回転数(33/45)を切り替えます。

⑩ **トーンアーム**
トーンアームを移動させ、レコードを再生します。

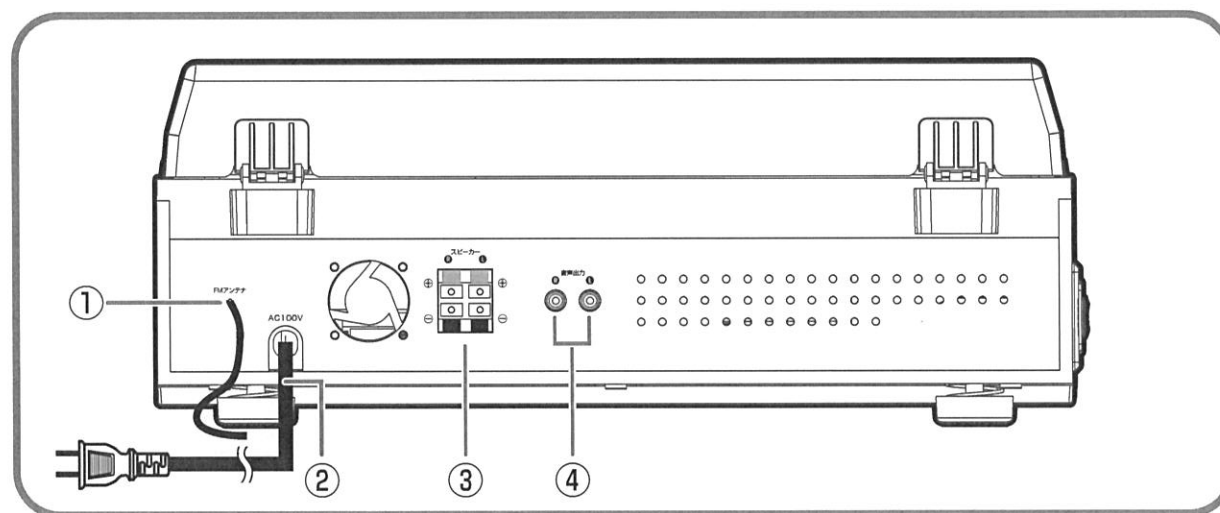
⑪ **ピッチ調整つまみ**
ターンテーブルの回転数を微調整します。

⑫ **レコード針カートリッジ**
レコード針を固定するカートリッジです。

本体の各部名称

本体右側面

① 再生/早送り/取り出しボタン
カセットテープの再生/早送り/取り出しをします。

② カセットテープスロット
カセットテープを挿入します。

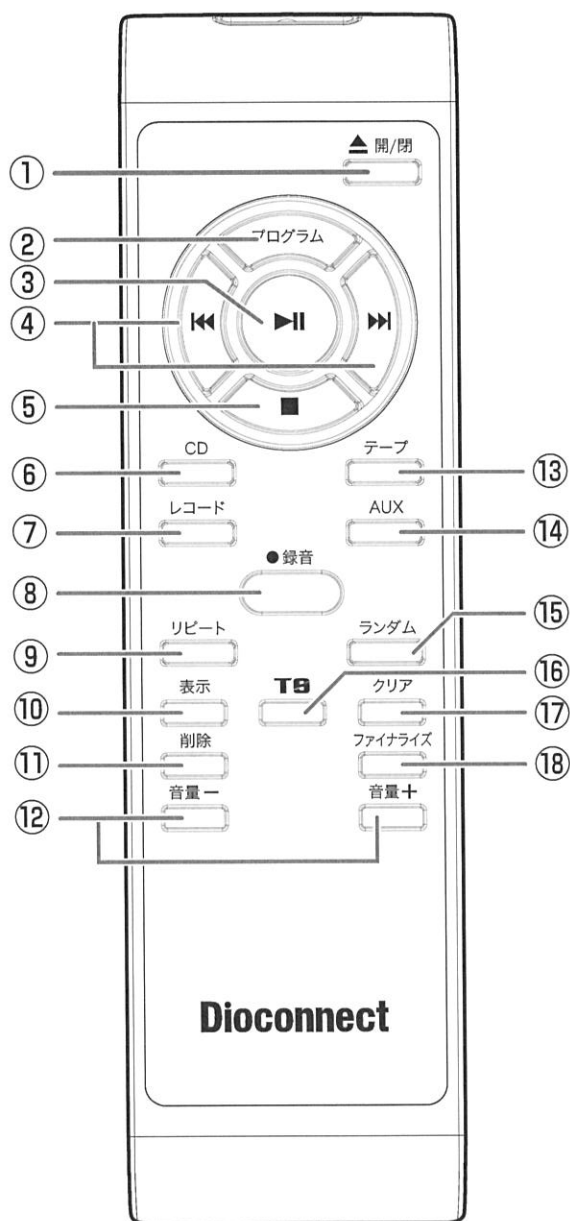
本体背面

① FMアンテナ
FM放送を受信するためのアンテナコードです。

② AC電源コード
家庭用コンセントに接続します。

③ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

④ 音声出力端子
オーディオケーブル(赤/白端子)で外部機器を接続し、本製品の音声を外部機器で出力します。

リモコンの各部名称

本体正面 1

① **CDトレイ開閉ボタン**
CDトレイを開閉します。

② **プログラムボタン**
CDモードで、プログラム再生の設定をします。

③ **再生/一時停止（▶II）ボタン**
CDモードで、CDを再生します。CDの再生中にボタンを押すと、再生が一時停止します。

④ **頭出し（I◀◀/▶▶I）ボタン**
CDモードで、前･次のトラックの頭出しをします。

⑤ **停止（■）ボタン**
CDモードで、再生を停止します。また、レコード、カセットテープ、外部入力の録音の停止をします。

⑥ **CDモードボタン**
CDモードにします。

⑦ **レコードモードボタン**
レコードモードにします。

⑧ **録音（●）ボタン**
レコード、カセットテープ、外部入力からCD-R/-RWへ録音することができます。

⑨ **リピートボタン**
CDモードで、リピート再生をします。
ボタンを押すごとに、「全トラックリピート」→「1トラックリピート」→「通常再生」の順に切り替わります。

⑩ **表示ボタン**
CDモードで、ディスプレイの表示を切り替えます。

⑪ **削除ボタン**
CD-RWのトラックを削除したり、ファイナライズを解除することができます。

⑫ **音量（+/ー）ボタン**
音量を調整します。

⑬ **カセットテープモードボタン**
カセットテープモードにします。

⑭ **外部入力（AUX）モードボタン**
外部入力モードにします。

⑮ **ランダムボタン**
CDモードで、ランダム再生をします。

⑯ **TS（トラックセパレーション）ボタン**
録音中にこのボタンを押すと、ボタンを押した箇所でトラックを分割することができます。

⑰ **クリアボタン**
CDモードで、プログラム設定をしたトラックをクリア（解除）します。

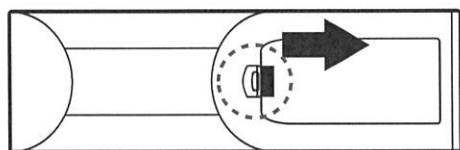
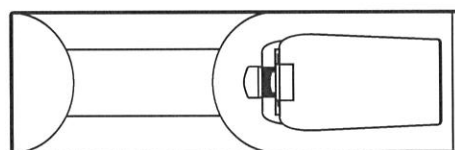
⑱ **ファイナライズボタン**
録音したCD-R/-RWをファイナライズします。

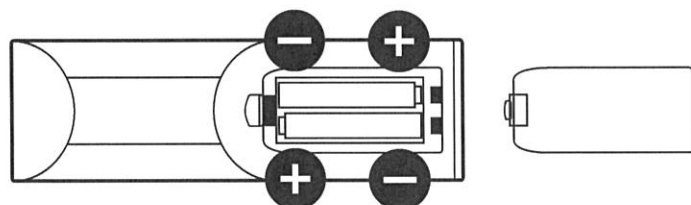
リモコンを使う

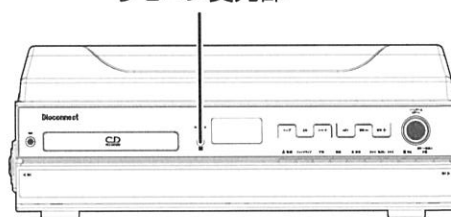
○リモコンに使用する電池について
・極性〔(+)と(−)〕の方向を間違えて挿入しないでください。
・充電・加熱・分解・ショートさせたり、火の中に入れたりしないでください。
・電池に表示されている【使用推奨期限】を過ぎていたり、使い切って残量のない電池は、リモコンに入れたままにしておかないでください。液漏れの原因となります。
・新しい電池と古い電池、種類の違う電池を一緒に使わないでください。
これらを守らないと、液もれや破裂などにより、火傷やケガの原因となることがあります。もし液体が皮膚や衣類についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。液体が目に入った場合は、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。器具に付着した場合は、液体に直接触れないで拭き取ってください。

禁止

電池の交換について

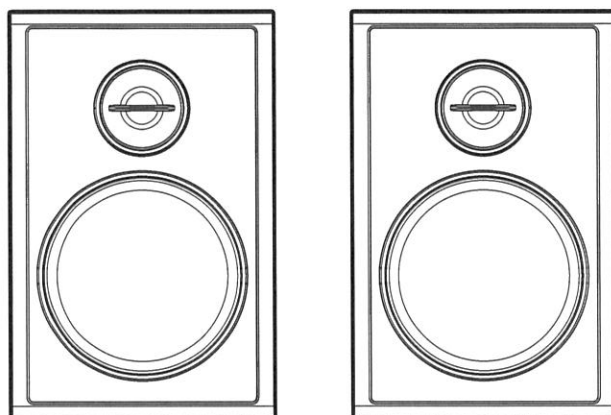
① リモコン背面の蓋のつまみに爪を引っかけ、下図矢印の方向に蓋を開けます。

② リモコン内部の電池ケースのプラス極とマイナス極の表示に合わせて、単4形乾電池を入れます。

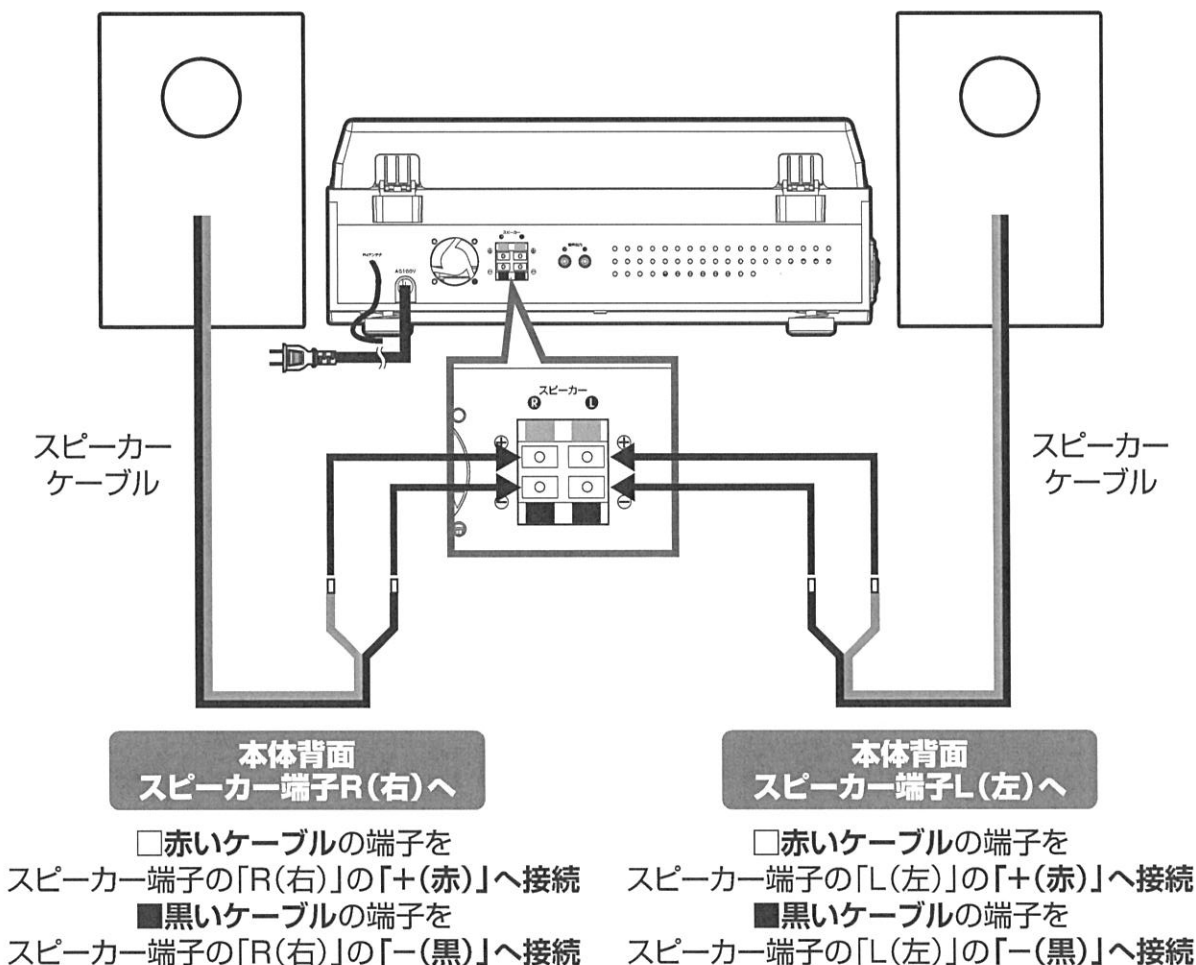
③ 蓋の下の爪をリモコンの下に引っかけ、蓋を閉じます。

リモコンの使い方

●リモコンを、本体のリモコン受光部に向けてボタンを押します。
※リモコン受光部に、太陽光や蛍光灯など強い光が当たると、リモコンが動作しないことがあります。

注意

●電池について
リモコンが動作しなかったり、到達距離が短くなった場合は、新しい電池と交換してください。
●リモコンについて
・落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
・高温、高湿になる場所に置かないでください。

スピーカーについて

●本製品にはスピーカーが付属しています。
●付属のスピーカーは2つとも同じ構造です。左右のどちらにでも設置することができます。

本体にスピーカーを接続する

●下図の通り、スピーカーケーブルを本体背面のスピーカー端子へ接続してください。

本体背面
スピーカー端子R（右）へ

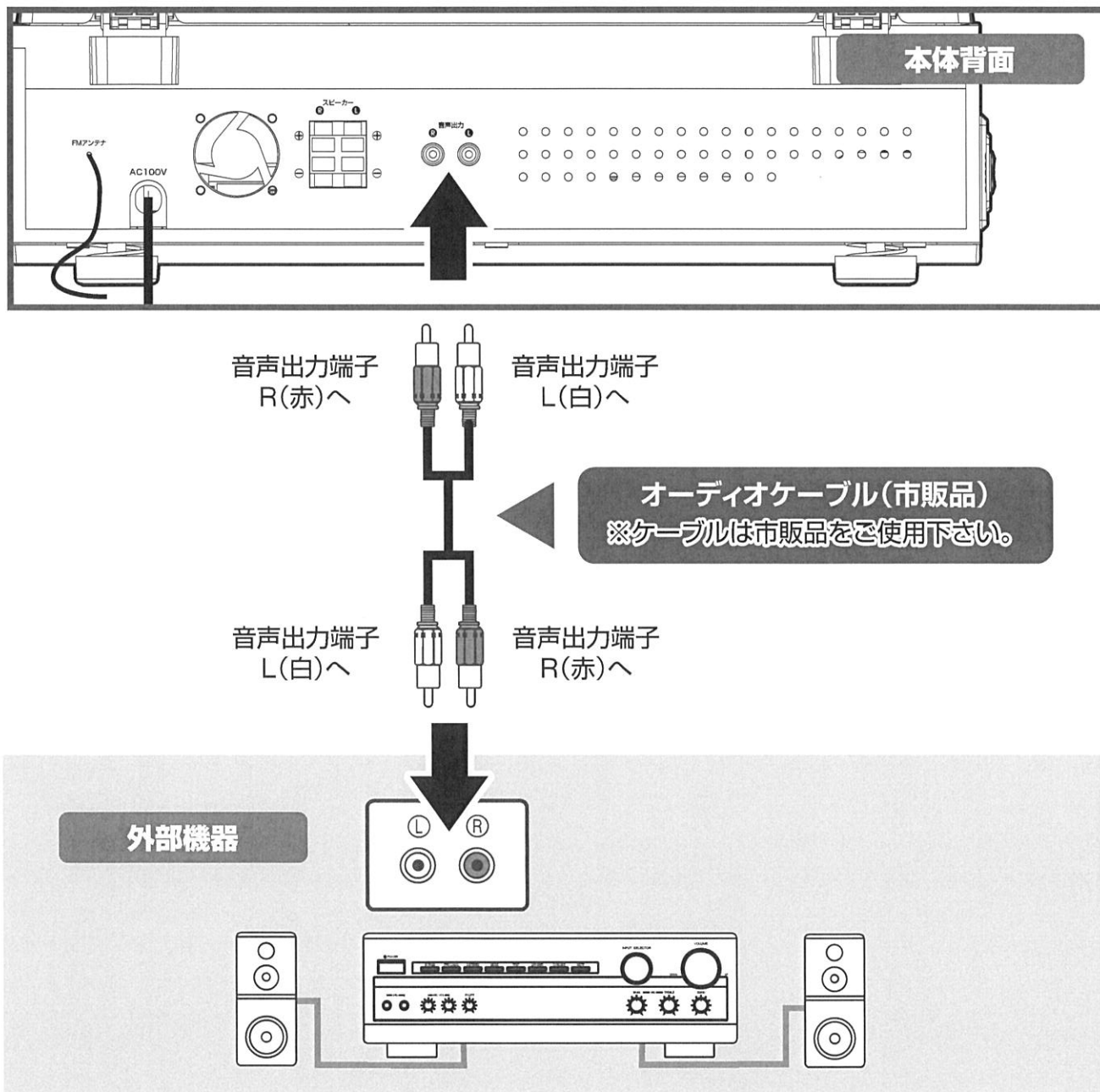
□**赤いケーブル**の端子を
スピーカー端子の「R（右）」の**「+（赤）」へ接続**
■**黒いケーブル**の端子を
スピーカー端子の「R（右）」の**「−（黒）」へ接続**

本体背面
スピーカー端子L（左）へ

□**赤いケーブル**の端子を
スピーカー端子の「L（左）」の**「+（赤）」へ接続**
■**黒いケーブル**の端子を
スピーカー端子の「L（左）」の**「−（黒）」へ接続**

音声出力の接続をする

・接続する時は、必ず本製品及び外部機器の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
・接続前に、接続する機器の説明書もお読みください。

○本製品の音声を外部機器から出力することができます。
図の接続方法に従って、製品の接続を行ってください。

本体背面

FMアンテナ
AC100V
スピーカー
音声出力

音声出力端子
R(赤)へ

音声出力端子
L(白)へ

オーディオケーブル(市販品)
※ケーブルは市販品をご使用下さい。

音声出力端子
L(白)へ

音声出力端子
R(赤)へ

外部機器

Ⓛ Ⓡ

音声入力の接続をする

・接続する時は、必ず本製品及び外部機器の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
・接続前に、接続する機器の説明書もお読みください。

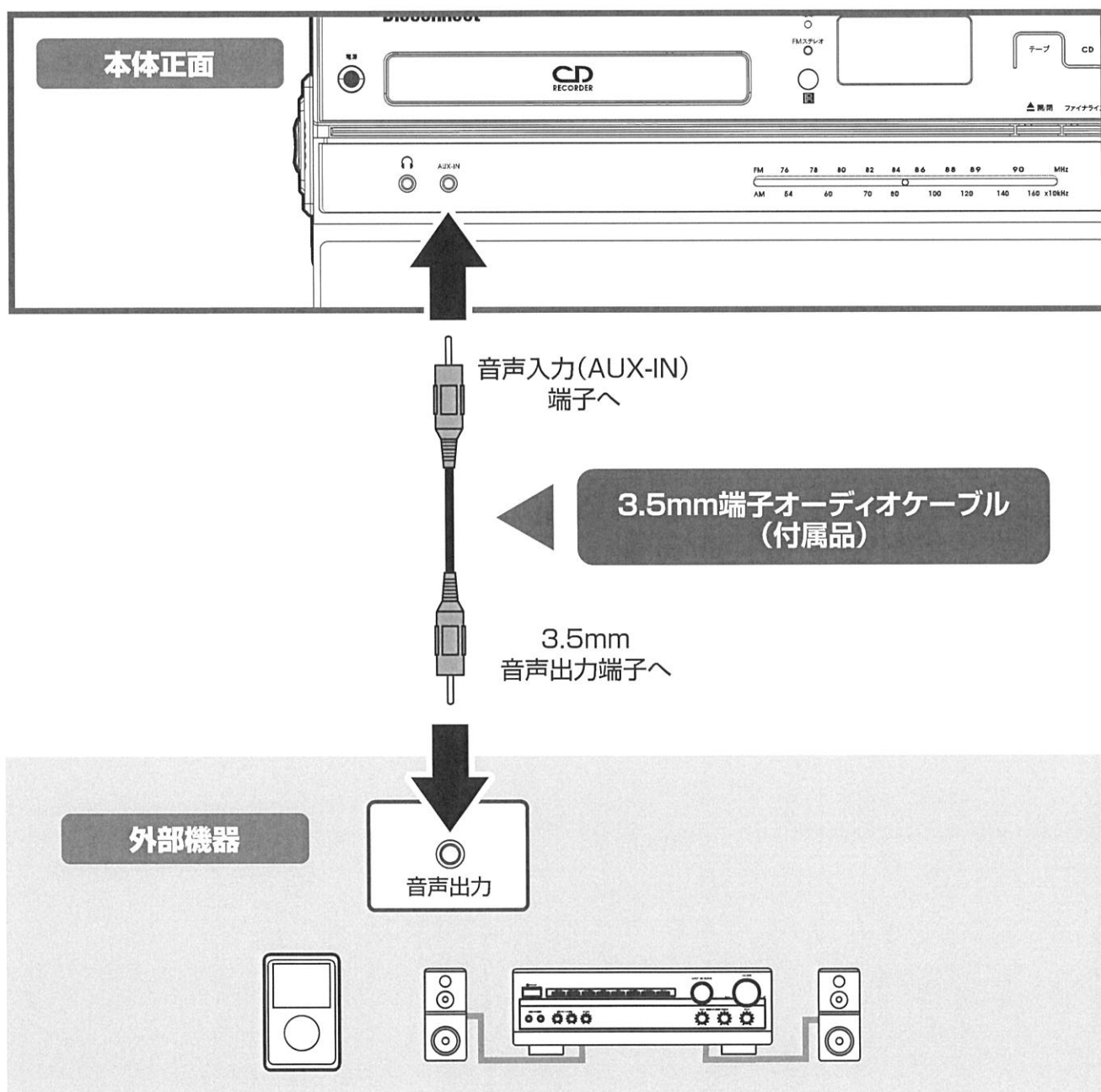
○外部機器の音声を本製品へ入力し、本製品で外部機器の音声を出力･録音することができます。
図の接続方法に従って、製品の接続を行ってください。

○接続後、本体の電源をオンにし、**「外部入力(AUX)モードボタン」**を押して、外部入力モードにします。

本体正面

音声入力(AUX-IN)
端子へ

3.5mm端子オーディオケーブル
(付属品)

3.5mm
音声出力端子へ

外部機器

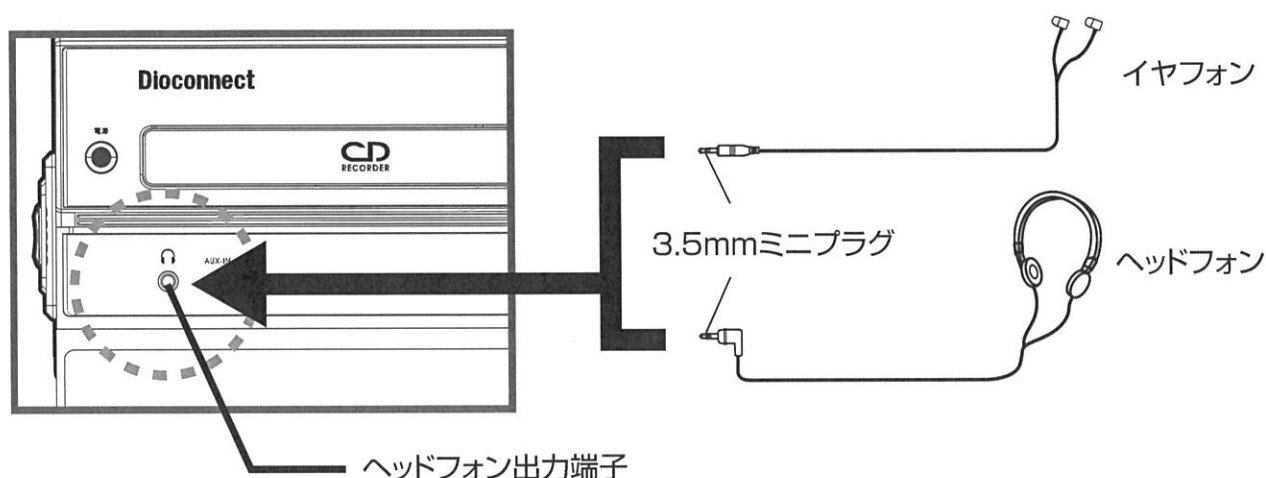
音声出力

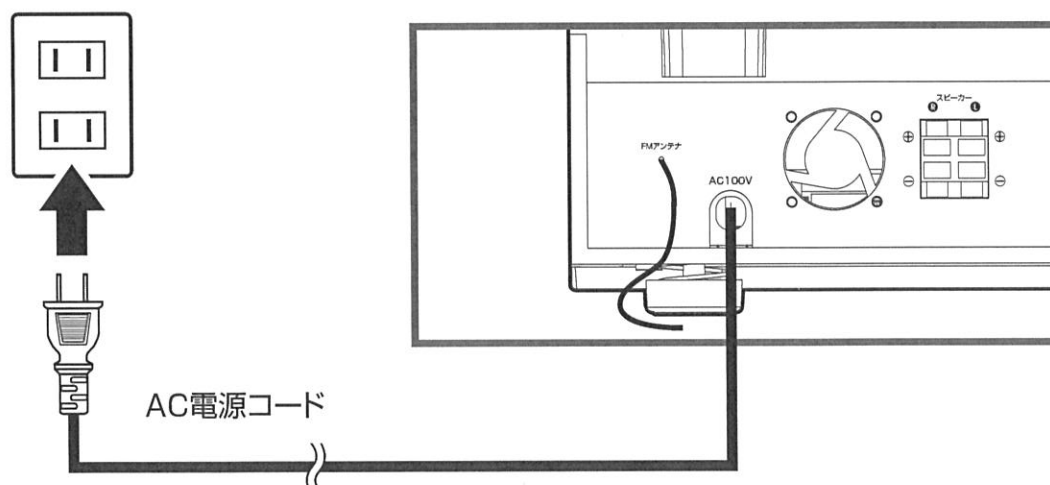
注意

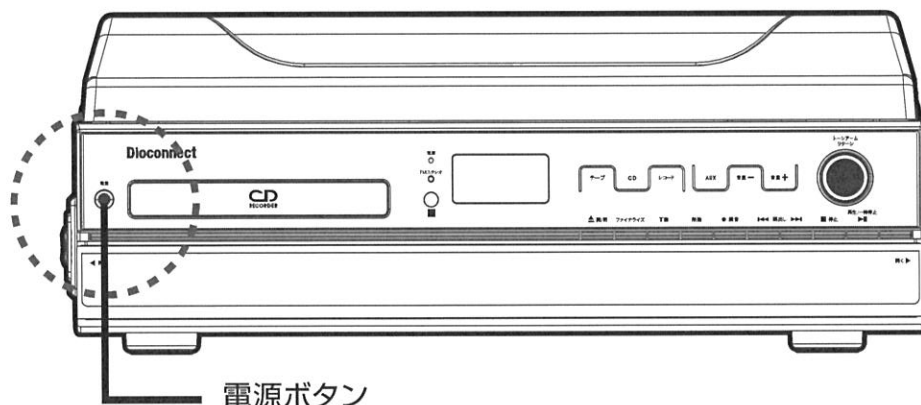
●接続する外部機器によっては、ご使用になれない場合があります。

ヘッドフォン/イヤフォンを接続する

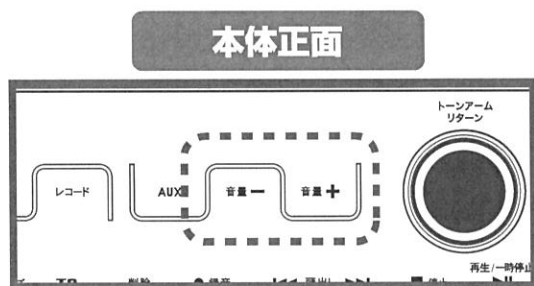
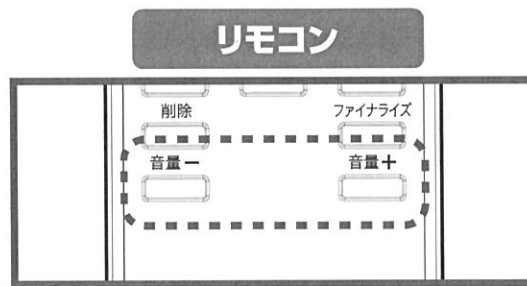
○本製品の音声をヘッドフォン/イヤフォン(市販品)で聴くことができます。

●本体のヘッドフォン出力端子に、市販品のヘッドフォン/イヤフォンを接続します。
ヘッドフォン/イヤフォンを接続すると、本体の音声出力がヘッドフォン/イヤフォン優先になり、スピーカーからは音が出力されなくなります。
※ヘッドフォン/イヤフォンを接続する際は、事前に音量を下げてから接続を行ってください。

電源コードを接続する

○本製品の電源をオンにするには、電源コードをコンセントに接続します。

電源のオン/オフ

○本体の**「電源ボタン」**を押すと電源がオンになります。
○電源がオンの状態で**「電源ボタン」**を押すと電源がオフになります。

音量を調節する

○各モードボタンで本体またはリモコンの**「音量(+/-)ボタン」**を押して、音量を調節します

本体正面

音量(+/-)ボタン

リモコン

音量(+/-)ボタン

モードを切り替える

CD/ラジオ切り替えセレクター

○モードを切り替える際は、まず本体の**「CD/ラジオ切り替えセレクター」**を**「CD」**、**「ラジオ」**のいずれかに切り替えます。

CD

●ラジオ以外のモードを選択する場合は、「CDに切り替えてください。
※ここでの「CD」とは、録音先を意味します。

➡ 次項を参照してください。

ラジオ

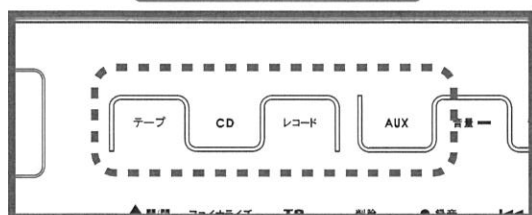
●FM/AMラジオを聴くことができます。

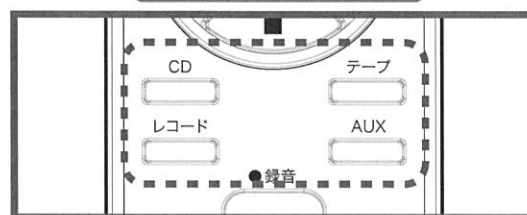
➡ P.34を参照してください。

モードを切り替える

各モードに切り替える

○本体またはリモコンの各モードボタンを押してモードを切り替えます。

本体正面

各モードボタン

リモコン

各モードボタン

CD

●音楽CD、CD-R/-RWを再生することができます。

➡ P.29～P.31を参照してください。

レコード

●レコードを再生することができます。
●レコードからCD-R/-RWへ録音することができます。

➡ P.22～28、P.36を参照してください。

テープ

●カセットテープを再生することができます。
●カセットテープからCD-R/-RWへ録音することができます。

➡ P.32～33、P.37を参照してください。

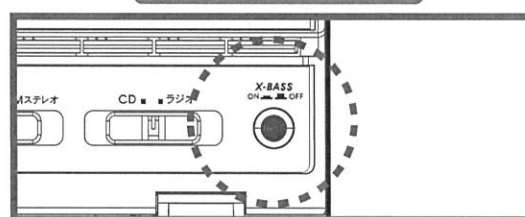
外部入力（AUX）

●接続した外部機器の音声を本製品で出力することができます。
●外部入力からCD-R/-RWへ録音することができます。

➡ P.18、38を参照してください。

X-BASS機能

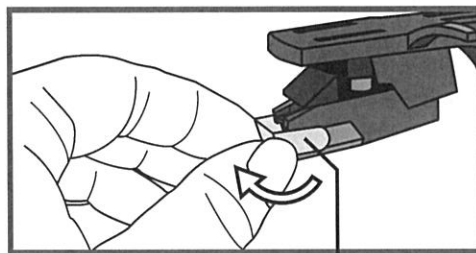
○本体の**「X-BASSボタン」**をオンにすると、重低音を強調したサウンドを楽しめます。

本体正面

X-BASSボタン

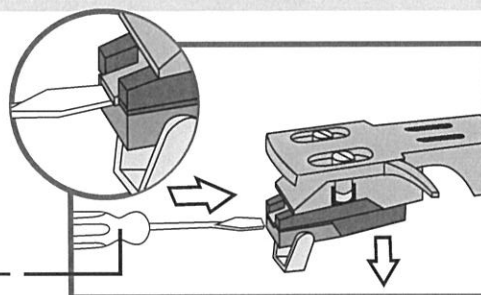
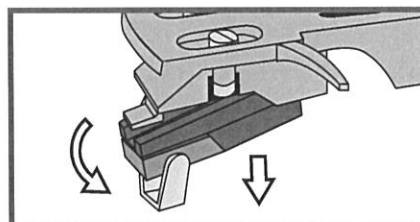
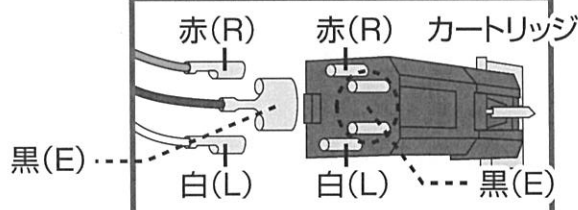
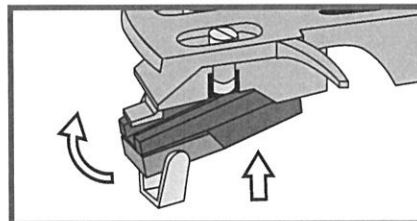
レコードの準備

レコード針カートリッジのカバーを上げる

レコードをご使用の前に、レコード針カートリッジのカバーを上げてください。

●右図のように矢印の方向へカバーを上げます。
※レコード針は精密品です。乱暴に扱わず、取り扱いには十分ご注意ください。
●レコードを使用しない時はカバーを下げてください。

レコード針カートリッジ（別売）の交換

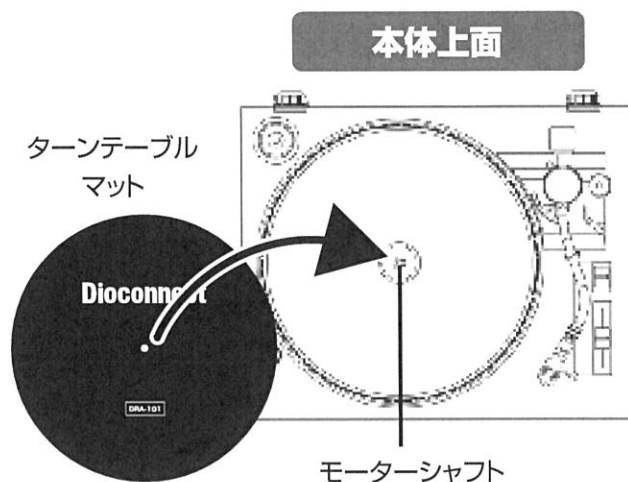
●別売のレコード針カートリッジの交換は下記の手順を参照してください。

① 取り付け部正面の中央の溝にマイナスドライバーなどを差し込み、軽く引き下げます。
カートリッジの前方が外れます。

② カートリッジの下部を取り外し、配線端子からコードを傷つけないように外します。

③ 図のようにコードの色を間違えないように、配線端子のコードの先端金具を差し込みます。

④ カートリッジの後ろの突起部を奥に差し込み、前部分を押し込むと、カチッとはまります。

注意

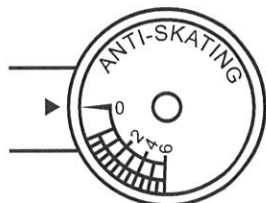
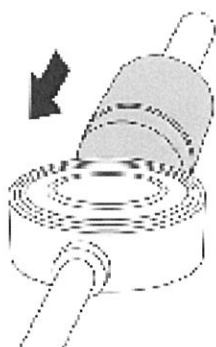
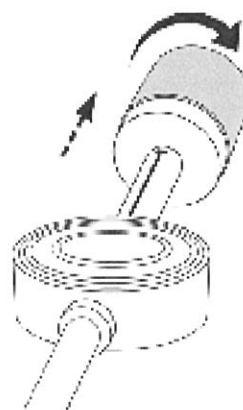
●本体にレコードをセットした状態では絶対に行わないでください。
●針部には触らないでください。
●レコード針の使用耐久時間の目安は約100時間です。それ以上使用を続けると、レコードを傷つけてしまう恐れがありますので、ご注意ください。

レコードの準備

ターンテーブルマットをセットする

○付属の「**ターンテーブルマット**」の穴と、「**ターンテーブル**」の中心の「**モーターシャフト**」の位置を合わせ、差し込んでセットします。

カウンターウェイトの取り付け/アンチスケーティング・針圧の調整

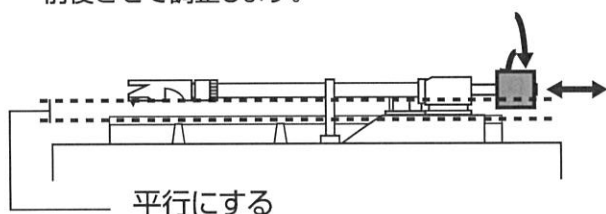
○本製品には、カウンターウェイトが付属しています。
カウンターウェイトとは、トーンアームの水平のバランスをとり、レコード針カートリッジに適正な加重をかけるためのオモリです。左右に回転させてご希望の針圧になるよう数値を調整します。

① 「**アンチスケーティング**」を「**0**」の位置に合わせます。

② 「**トーンアーム**」の後部軸からカウンターウェイトを取り付けます。

③ カウンターウェイトを回しながら、白い線が見えるまで後ろに戻します。

④ 「**キューイングレバー**」を上げ、ターンテーブルの上に「**トーンアーム**」を移動させます。

次のページに続きます

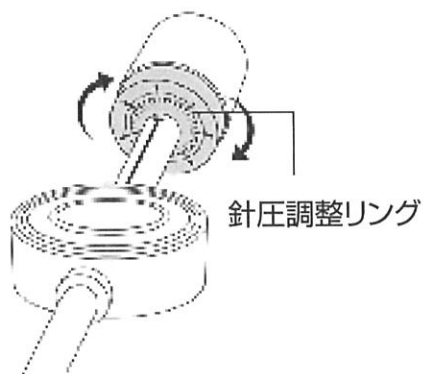
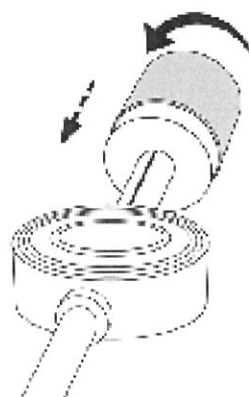
レコードの準備

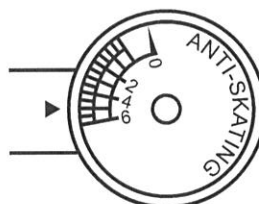
カウンターウェイトの取り付け/アンチスケーティング・針圧の調整

⑤ **「キューイングレバー」**を下げた時、**「トーンアーム」**と**「ターンテーブル」**面が平行になり、水平のバランスがとれるようにカウンターウェイトを前後させて調整します。

注意

●キューイングレバーを下げたとき、カートリッジの針先がターンテーブルシートやターンテーブルに触れないようにご注意ください。

⑥ 水平のバランスがとれたら、**「キューイングレバー」**を使って、**「トーンアーム」**を**「アームレスト」**に戻します。

⑦ カウンターウェイトの**「針圧調整リング」**だけをまわし、**「トーンアーム」**の中心軸の白い線の位置に数字の**「0」**を合わせます。

⑧ カウンターウェイトと**「針圧調整リング」**を一緒に回し、最適な針圧の数値に合わせます。

●付属のレコード針カートリッジの適正針圧は**「4.0~6.0g」**です。針圧の調整は適正範囲内で行ってください。

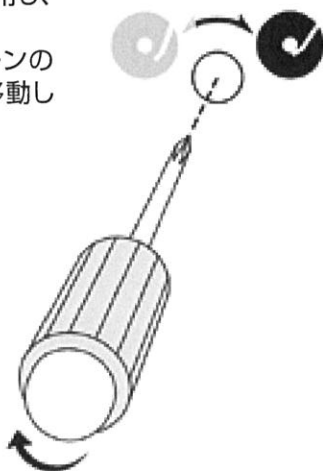
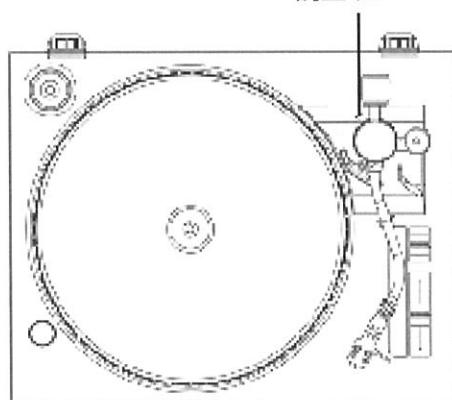
⑨ **「アンチスケーティング」**をレコード針カートリッジの適正針圧の数値に合わせてください。

例:付属のレコード針カートリッジの場合

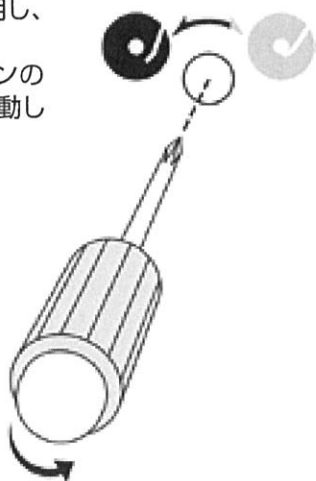
レコードの準備

調整ネジでトーンアームを調整する

○付属の**「調整ネジ」**で調整を行うことで、レコード再生時の**「トーンアーム」**の停止/自動リターンの位置を変更することができます。下記のような状況時に調整をしてください。
※調整時は、ラバーカバーを外してください。（ラバーカバーをなくさないようにご注意ください。）

レコードの再生終了前に「トーンアーム」が「アームレスト」に戻ってしまう場合

○ネジに適したプラスドライバーを使用し、調整ネジを時計回りに回します。
「トーンアーム」の停止/自動リターンの位置がレコードの中心より内側に移動します。

本体上面

レコードの再生が終了しても「トーンアーム」が自動的に「アームレスト」に戻らない場合

○ネジに適したプラスドライバーを使用し、調整ネジを反時計回りに回します。
「トーンアーム」の停止/自動リターンの位置がレコードの中心より外側に移動します。

注意

●レコードの停止位置は、レコードにより異なります。再生するレコードに合わせて調整をしてください。
●トーンアームの位置は、工場出荷時に最も平均的な位置に調整してます。
●トーンアームの停止位置は定期的にチェックをしてください。また、ネジは破損や劣化を防ぐため、締め過ぎないように注意してください。

レコードの準備

ストロボスコープでスピードの確認をする

○本製品はストロボイルミネーターを搭載しています。ターンテーブルの円周上の刻まれたストロボに照明を照射します。ターンテーブルの回転ピッチを変化させた結果を、ターンテーブルの円周上の刻まれたストロボの動きで読みとることができます。

① **「レコード回転数切り替えスイッチ」**を再生したいレコードに適した回転数に切り替えます。

② **「キューイングレバー」**を上げて**「トーンアーム」**を持ち上げ、ターンテーブルに近づけてターンテーブルの回転を開始させます。

③ 回転ピッチをターンテーブル側面に刻まれたストロボで確認します。このストロボは、各段で各回転数を示しており、その対象のストロボの列が静止して見えると回転ピッチは正確となります。

④ ストロボが静止して見えない場合、**「ピッチ調整つまみ」**を+/−方向にずらし、対象のストロボの列が静止して見えるように調整します。

本体上面

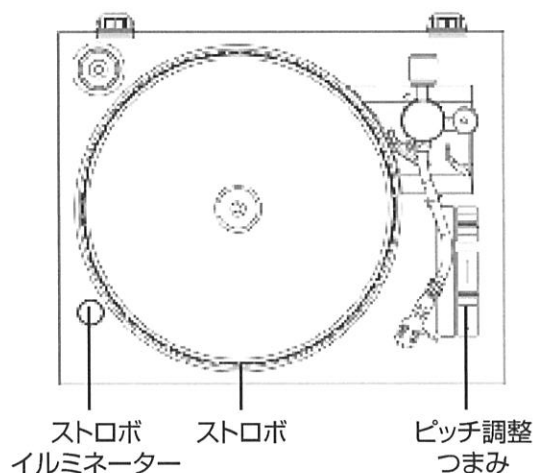
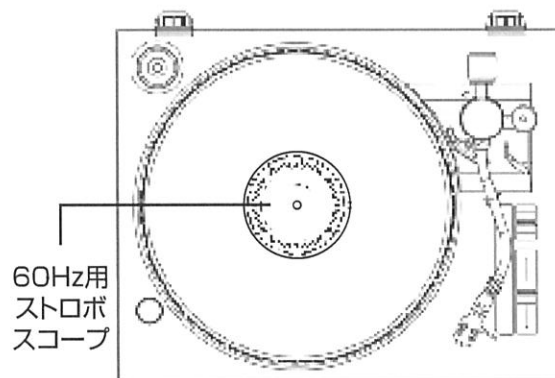
ターンテーブル側面

お住まいの地域の電源周波数が60Hz帯の場合(関西以南)

○本製品搭載のストロボイルミネーターは50Hzにて照射してます。60Hz帯の地域にお住まいの場合は、お部屋の照明を付けた状態で、付属の60Hz用ストロボスコープをご使用ください。

① ターンテーブルの上に付属の**「60Hz用ストロボスコープ」**を乗せ、上記①、②の手順を行います。

② 回転ピッチを**「60Hz用ストロボスコープ」**表面に印刷されたストロボで確認します。直接上から覗き込んだ状態で、対象のストロボの列が静止して見えると回転ピッチは正確となります。

③ ストロボが静止して見えない場合、**「ピッチ調整つまみ」**を+/−方向にずらし、対象のストロボの列が静止して見えるように調整します。

本体上面

レコードを聴く

○本製品は**レコードを再生することができます。33回転と45回転の再生速度に対応しています。**

●アームレストにある固定フックを開いた状態でダストカバーを閉めると、フックが破損する恐れがあります。ダストカバーを閉める前に必ずフックを戻した状態にしてください。

レコードモードにする

●本体の**「CD/ラジオ切り替えセレクター」**を**「CD」**に切り替えます。

●ディスプレイに**「PLS SELECT FUNCTION」**と表示されたら、本体もしくはリモコンの**「レコードモードボタン」**を押します。

※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。

本体正面

レコードモードボタン　CD/ラジオ切り替えセレクター

レコードをセットする

① 本体上面のダストカバーを開けます。

② レコードの演奏スピードに合わせて**「レコード回転数切り替えスイッチ」**を設定します。
回転ピッチの調整についてはP.26を参照してください。

③ レコードのレーベル面を上にした状態でターンテーブルの上にセットします。

●EP盤のレコードの場合は、レコードを固定するために付属のディスクスタビライザーをレコードの下にセットします。

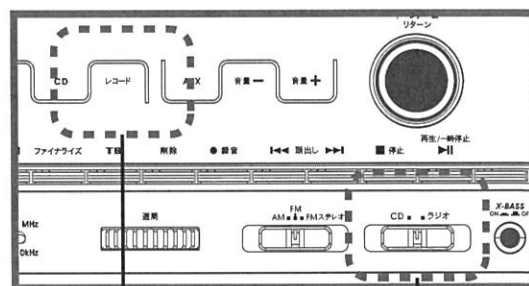
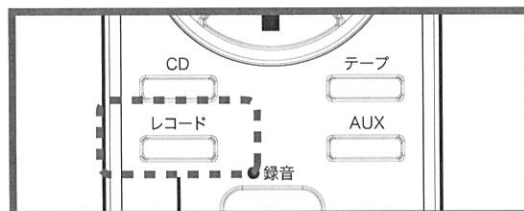
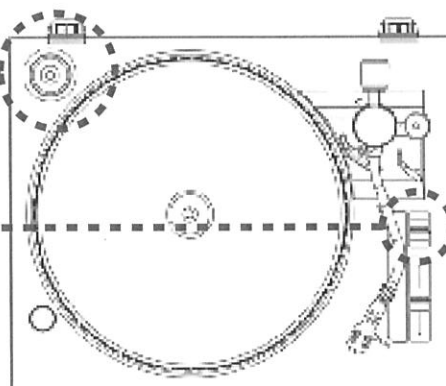
●LP盤のレコードの場合は、回転を安定させるために付属のディスクスタビライザーをおもりとして使用することもできます。レコードの上に乗せてご使用ください。

リモコン

レコードモードボタン

本体上面

ディスクスタビライザー

レコード回転数切り替えスイッチ

注意

●ダストカバーは樹脂製のデリケートなパーツです。開閉時はヒンジ部などが破損しないように、丁寧にお取り扱いください。

レコードを聴く

レコードを再生する

① レコード針のカバーを上げます。

② **「アームレスト」**から**「トーンアーム」**を取り外すために、**「固定フック」**を外します。

③ **「キューイングレバー」**を上げ、図の矢印の方向に**「トーンアーム」**を動かすと、自動的にターンテーブルが回転し始めます。

④ レコードの演奏したい位置に**「トーンアーム」**を移動させ、**「キューイングレバー」**を下げると、ゆっくりとトーンアームが下がり、レコード針がレコードの上に置かれ、再生が開始されます。

⑤ レコードの再生が終わると、**「トーンアーム」**は自動的に**「アームレスト」**に戻ります。固定フックで固定してください。
「トーンアーム」を戻すと、ターンテーブルの回転は自動的に停止します。

本体上面

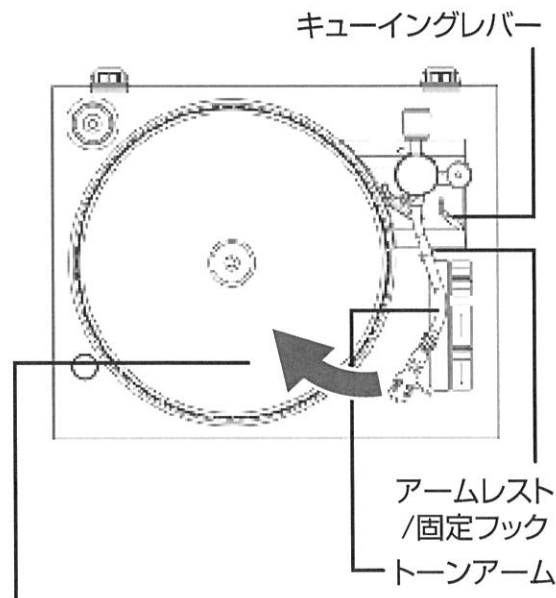
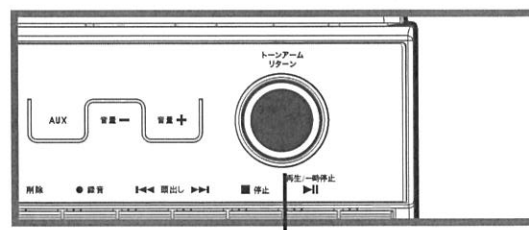
キューイングレバーを上げたら、トーンアームを左方向に動かし、キューイングレバーを下げると、ゆっくりとレコード針がレコードの上に置かれ、再生が開始されます。

再生を一時停止する場合

レコードの再生中に**「キューイングレバー」**を上げると、レコードの再生を一時停止することができます。

再生の途中でトーンアームをアームレストに戻す場合

レコードの再生中に本体の**「トーンアームリターンボタン」**を押すと、**「トーンアーム」**は自動的に**「アームレスト」**に戻ります。

本体正面

注意

●レコードの再生時は、ダストカバーを降ろし、レコードにほこりや傷が付かないようにしてください。
●レコード針カートリッジ部分や、レコードのクリーニングは、それぞれ市販品の専用クリーニングキットなどをご使用ください。
●音質の劣化が認められた場合は、すぐにクリーニングを行ってください。

音楽CDを聴く

○音楽CDや、CD-DAフォーマットで記録された音楽用CD-RとCD-RW再生に対応しています。

※CD-DAフォーマットの音楽用CD-RとCD-RWは録音終了時にファイナライズが必要です。ただし、記録状態によっては再生できない場合があります。

CDモードにする

●本体の「**CD/ラジオ切り替えセレクター**」を「**CD**」に切り替えます。

●ディスプレイに「**PLS SELECT FUNCTION**」と表示されたら、本体もしくはリモコンの「**CDモードボタン**」を押します。

※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。

本体正面

CDモード
ボタン

CD/ラジオ
切り替えセレクター

CDトレイ開閉
ボタン

再生/一時停止
（ ▶II ）ボタン

CDをセットする

① 本体もしくはリモコンの「**CDトレイ開閉ボタン**」を押して、CDトレイを開けます。

② レーベル面を上にした状態でCDをCDトレイのくぼみに沿って正確に置きます。

③ 本体もしくはリモコンの「**CDトレイ開閉ボタン**」を押して、CDトレイを閉めます。

④ 自動的にCDが読み込まれ、ディスプレイに「**bUSY**」と表示され、読み込みが完了するとCDのトラック数と収録時間が表示されます。

リモコン

再生/一時停止
（ ▶II ）ボタン

CDモードボタン

CDトレイ開閉
ボタン

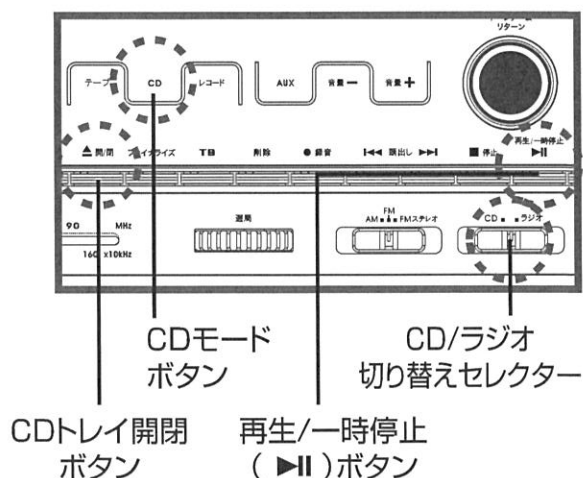
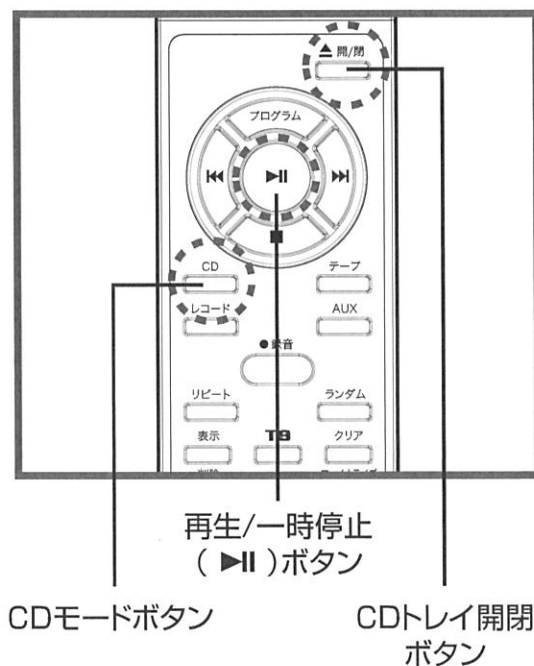
CDモードの基本操作

再生

●本体もしくはリモコンの「**再生/一時停止（ ▶II ）ボタン**」を押して再生します。

一時停止

●CDの再生中に本体もしくはリモコンの「**再生/一時停止（ ▶II ）ボタン**」を押して一時停止します。

●一時停止を解除するには本体もしくはリモコンの「**再生/一時停止（ ▶II ）ボタン**」を押し、再生を再開します。

注意

●CCCDとCD EXTRAの場合、トラック数が多く表示されることがあります。

音楽CDを聴く

CDモードの基本操作

停止

●CDの再生中に、本体もしくはリモコンの**「停止（■）ボタン」**を押して停止します。

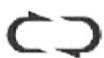
次のトラックへスキップ

●本体の「頭出し ⏭ ボタン」、もしくはリモコンの「 ⏭ ボタン」を押して次のトラックにスキップします。

前のトラックへスキップ

●本体の「頭出し ⏮ ボタン」、もしくはリモコンの「 ⏮ ボタン」を押して前のトラックにスキップします。

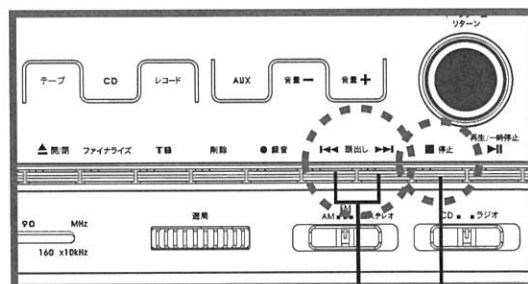
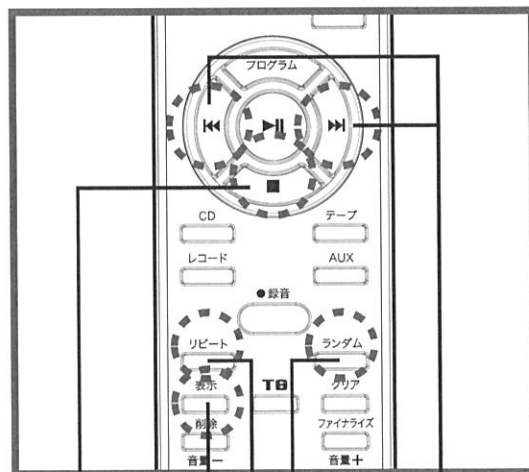
リピート再生

●リモコンの**「リピートボタン」**を押してリピートモードに切り替えます。ボタンを押すごとに、リピートモードが切り替わります。

	選曲中のトラックをリピート再生します。
	全てのトラックをリピート再生します。
表示なし	通常の再生モードに戻ります。

ランダム再生

●ランダムモードではCDに記録されているトラックの順番を入れ替えてランダムに再生します。
リモコンの**「ランダムボタン」**を押してランダムモードに切り替えます。ディスプレイに『**RAN**』と表示されます。ランダム再生を停止する場合は、本体もしくはリモコンの**「停止（■）ボタン」**を押して再生を停止します。

ディスプレイ表示

●CDの再生中にリモコンの**「表示ボタン」**を押すと、ディスプレイ表示が切り替わります。
ボタンを押すごとに、「トラックの経過時間」→「トラックの残り時間」と切り替わります。

音楽CDを聴く

CDモードの基本操作

プログラム再生

●ディスク/メモリ内のトラックの中からお好みのトラックだけを選び、選んだ順にプログラム再生することができます。最大で32トラックをプログラム登録することができます。

① 停止中にリモコンの**「プログラムボタン」**を押すと、ディスプレイに**「PROG」**とプログラムナンバー**「P-01」**が表示されます。

② 本体もしくはリモコンの**「⏮/⏭ ボタン」**を押してお好みのトラックに移動します。

③ リモコンの**「プログラムボタン」**を押すと、そのトラックがプログラム登録されます。

④ 次のトラック目以降の操作は、上記の2～3の手順を繰り返します。プログラムでは同じトラックを繰り返し選択することも可能です。

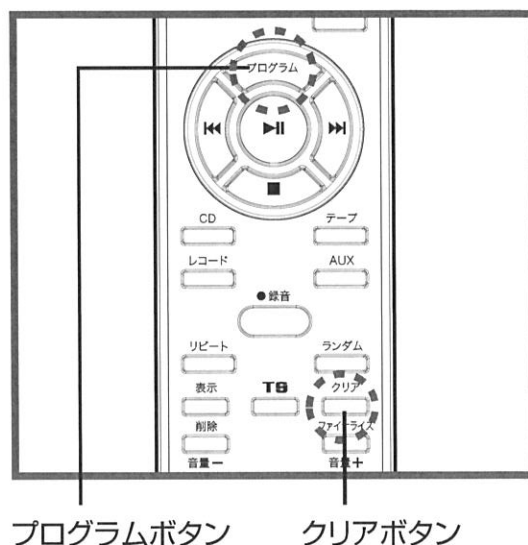
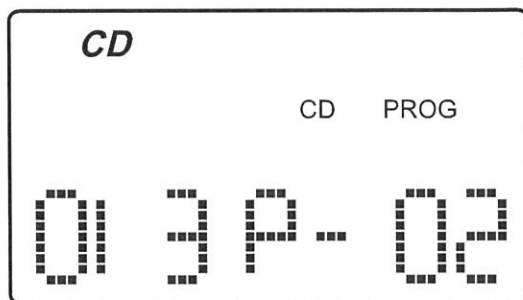
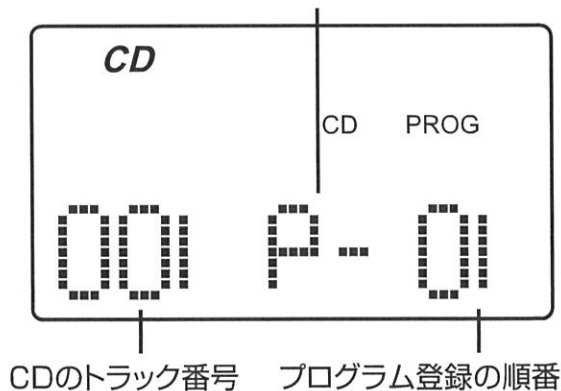
⑤ プログラムを登録し終わったら、本体もしくはリモコンの**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押してプログラム再生を開始します。

⑥ プログラム再生を停止する場合は、本体もしくはリモコンの**「停止(■)ボタン」**を押します。
プログラム登録を解除する場合は、停止状態でもう一度本体もしくはリモコンの**「停止(■)ボタン」**を押します。

●プログラム設定したトラックはリモコンの**「クリアボタン」**で1トラックずつ解除することができます。

① プログラム再生を停止した状態で、本体もしくはリモコンの**「⏮/⏭ ボタン」**を押して解除したいトラックに移動します。

② リモコンの**「クリアボタン」**を押すと、そのトラックがプログラムから解除されます。

リモコン

プログラム画面

プログラム登録2番目に、CDの13番目のトラックを登録する場合

カセットテープを聴く

○カセットテープの再生に対応しています。
※テープへの録音はできません。

カセットテープモードにする

●本体の「**CD/ラジオ切り替えセレクター**」を「**CD**」に切り替えます。
●ディスプレイに「**PLS SELECT FUNCTION**」と表示されたら、本体もしくはリモコンの「**カセットテープモードボタン**」を押します。
※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。

本体右側面

カセットテープをセットする

① 本体右側面の「**カセットテープスロット**」にカセットテープを挿入します。

② 本体の「**再生/早送り/取り出しボタン**」が飛び出した状態になったことを確認します。

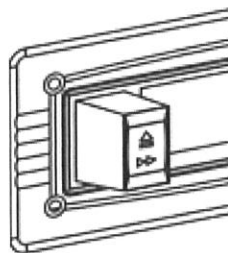
③ カセットテープをスロットに挿入すると同時に、自動的に再生が開始されます。

上にした面が再生されます。

※カセットテープに無理な力をかけずに挿入してください。

カセットテープモードの基本操作

再生

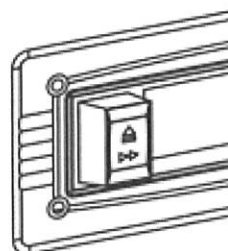
●カセットテープの挿入と同時に自動的に再生が開始されます。再生が終了すると、自動停止します。

「再生」のボタンの状態

ボタンが前に出た状態になります。

早送り

●「**再生/早送り/取り出しボタン**」を半押し状態になるまで押します。早送りが終了すると、自動停止します。

●早送り状態から再生に戻す場合は、「**再生/早送り/取り出しボタン**」を少しだけ押して、ボタンを「**再生**」の状態に戻します。

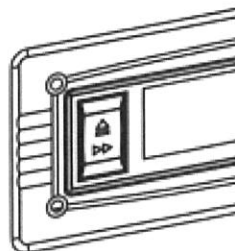
※上記の動作時、テープのたわみが発生し、そのため再生直後は音声が安定しない場合があります。その場合は、2～3秒程度再生をおこなうと、正常な音声に戻ります。

「早送り」のボタンの状態

ボタンが前に半分出た状態になります。

カセットテープを聴く

カセットテープモードの基本操作

取り出し

●**「再生/早送り/取り出しボタン」**を一番奥まで押します。カセットテープがカセットテープスロットから出ます。

「取り出し」のボタンの状態

ボタンが一番奥まで押された状態になります。

テープの再生面の変更

●「A面」、「B面」の切り替えは、一度カセットテープを取り出し、**手動でカセットテープの反対の面を上にして、再度カセットテープスロットに挿入します。**

注意

●**早送り直後にテープの取り出しは行わないでください。テープが破損するおそれがあります。**

●90分を超えるカセットテープは使用しないでください。磁気テープが薄いため、テープが伸びたり、回転部分に巻き込まれやすくなります。
●再生前に磁気テープのたるみを取り除いてください。テープが巻き込まれることがあります。
●ヘッド部にゴミやほこりなどが付着すると、音質が劣化するおそれがあります。市販品のヘッドクリーナーなどで月1～2回くらいクリーニングをおこなってください。
●音質の劣化が認められた場合は、すぐにクリーニングを行ってください。
●カセットテープに変形などの異常が発生した場合は、本製品で使用をしないでください。本製品の故障の原因となります。

カセットテープの種類についての注意

カセットテープの種類には、ノーマル(Type I)、クロムポジション(Type II)、フェリクロム(Type III)、メタル(Type IV)があります。どの種類も再生は可能ですが、それぞれ記録されている音声の波形特性が異なります。特にフェリクロム(Type III)、メタル(Type IV)については、それ以外の種類とは波形特性が大きく異なり、本製品のような対応機器以外で再生をした場合、音が篭ってしまうなど、正常な音質で再生することができません。

ラジオを聴く

○本製品はFM/AMラジオを聴くことができます。
○FMラジオのアンテナは本体背面にあります。
FM放送を聴きながらチューナーアンテナの方向を変え、受信感度が良好なところを探し、テープなどで固定してください。
○AMラジオのアンテナは本体内蔵です。受信感度が良好な場所に本体を設置してください。

ラジオモードにする

●本体の**「CD/ラジオ切り替えセレクター」**を**「ラジオ」**に切り替えます。

FMラジオを聴く

① 本体の**「ラジオ切り替えスイッチ」**を**「FMステレオ」**に切り替えます。
FMステレオの受信感度が良好だと、本体の**「FMステレオランプ」**が点灯します。

② 本体の**「選局インジケーター」**のランプを見ながら**「選局つまみ」**を左右に回し、お好みの周波数に合わせます。

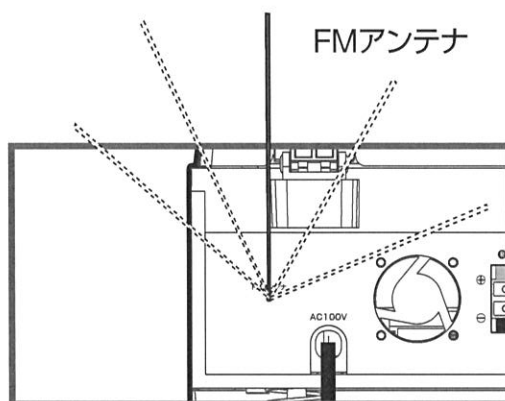
●FMの受信周波数は76.0〜90.0MHzです。
●電波の弱いところや雑音の多いところでFMラジオが受信しにくい場合は、**「ラジオ切り替えスイッチ」**を**「FM」**に切り替えてください。FMモノラルに切り替わり、雑音や音切れを軽減することができます。

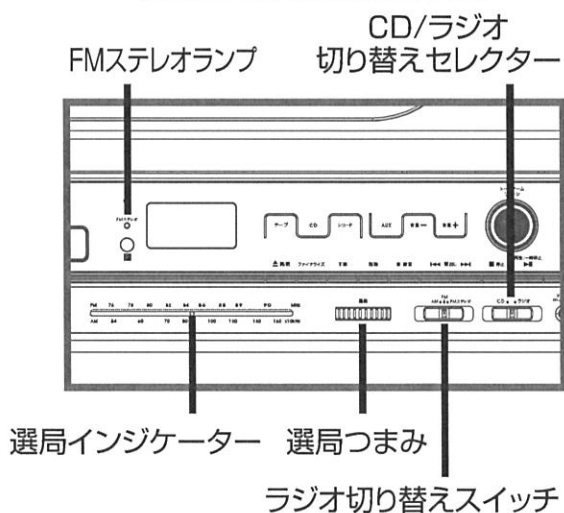
AMラジオを聴く

① 本体の**「ラジオ切り替えスイッチ」**を**「AM」**に切り替えます。

② 本体の**「選局インジケーター」**のランプを見ながら**「選局つまみ」**を左右に回し、お好みの周波数に合わせます。

●AMの受信周波数は530〜1600KHzです。

本体背面

受信感度が良好なところを探してください。

本体正面

注意

●受信できる放送局は地域により異なります。

録音の準備

○レコード、カセットテープ、外部入力からCD-R/-RWに録音をすることができます。録音はCD-DA形式です。
○CD-Rへの録音は、一度録音した音声の削除はできません。
○CD-RWへの録音は、あとから録音した音声を削除することができます。(ファイナライズ後は行えません。)

※録音したCD-RとCD-RWを他の機器で再生するには、録音終了時にファイナライズが必要です。(P.39参照)

録音前のモード切り替え

●本体の「**CD/ラジオ切り替えセレクター**」を「**CD**」に切り替えます。
●ディスプレイに「**PLS SELECT FUNCTION**」と表示されたら、本体もしくはリモコンの各モードボタンを押し、録音元のレコード、カセットテープ、外部入力(AUX)のいずれかのモードに切り替えます。

本体正面

CDトレイ開閉ボタン

CD/ラジオ切り替えセレクター

CD-R/-RWをセットする

① 本体もしくはリモコンの「**CDトレイ開閉ボタン**」を押して、CDトレイを開けます。

② レーベル面を上にした状態でCD-R/-RWをCDトレイのくぼみに沿って正確に置きます。

③ 本体もしくはリモコンの「**CDトレイ開閉ボタン**」を押して、CDトレイを閉めます。

④ 自動的にCD-R/-RWが読み込まれ、ディスプレイに「**bUSY**」と表示され、読み込みが完了するとディスプレイに「**NO TOC**」と表示されます。

※TOC=Table of contents(CDの目次情報)、つまり通常の読み取り専用の音楽CDにはTOCがあり、書き込みが行えませんが、ここで表示される「NO TOC」とは、セットしたCD-R/-RWが書き込みが可能な状態であり、TOCがないことを意味します。

リモコン

CDトレイ開閉ボタン

注意

●CD-R/-RWはメーカーやブランド、種類により、正常に録音できない場合や、録音品質が安定しない場合があります。
●録音中は、CDトレイ内のディスクの回転速度が通常のCD再生時よりも速くなりますが、これはディスクへの書き込みによるもので、本製品の故障ではございません。

レコードから録音する

録音手順

① CD-R/-RWのセットが完了したら、レコードモードに切り替えているか確認してください。

② 本体もしくはリモコンの**「録音(●)ボタン」**を押して、録音のスタンバイ状態にします。

③ P.27、P.28の**「レコードを聴く」**を参照し、レコードの再生準備をしてください。

④ レコードの再生準備ができたら、本体もしくはリモコンの**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、ディスプレイに録音経過時間が表示され、録音が開始されます。

- 録音はすぐに始まりますので、レコードの再生のスタートと、タイミングを合わせてください。
- レコードの再生よりも、録音のスタートを少し先にスタートすることをおすすめします。音声の頭が切れることなく録音することができます。

⑤ 本体もしくはリモコンの**「停止(■)ボタン」**を押して、録音を停止し、レコードの再生を停止します。

- 録音中に**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、レコードの再生が進んだまま、録音を一時停止します。もう一度**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、録音が再開されます。その際トラックは区切られます。

トラックを区切る

- 録音中に本体もしくはリモコンの**「TS(トラックセパレーション)ボタン」**を押すと、録音のトラックを区切ることができます。
  その際、レコードの再生もその瞬間停止し、間もなく次のトラックとして録音が再開すると、レコードの再生も再開されます。

注意

- 録音は等速で行われます。
- 録音は自動で停止しません。1トラックごとに区切りたい箇所で手動で録音を停止させてください。
- 録音するCD-R/-RWの空き容量が無くなると、録音は中止されます。残量の確認をしてください。

本体正面

TS(トラックセパレーション)ボタン
停止(■)ボタン
録音(●)ボタン
再生/一時停止(▶II)ボタン

リモコン

停止(■)ボタン
TS(トラックセパレーション)ボタン
録音(●)ボタン
再生/一時停止(▶II)ボタン

本体上面

キューイングレバーを上げたら、トーンアームを左方向に動かし、キューイングレバーを下げると、ゆっくりとレコード針がレコードの上に置かれ、再生が開始されます。

カセットテープから録音する

録音手順

① CD-R/-RWのセットが完了したら、カセットテープモードに切り替えているか確認してください。

② 本体もしくはリモコンの**「録音(●)ボタン」**を押して、録音のスタンバイ状態にします。

③ P.32、P.33の**「カセットテープを聴く」**を参照し、カセットテープの再生準備をしてください。

④ カセットテープの再生準備ができたら、本体もしくはリモコンの**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、ディスプレイに録音経過時間が表示され、録音が開始されます。

- ●録音はすぐに始まりますので、カセットテープの再生のスタートと、タイミングを合わせてください。
- ●カセットテープの再生よりも、録音のスタートを少し先にスタートすることをおすすめします。音声の頭が切れることなく録音することができます。

⑤ 本体もしくはリモコンの**「停止(■)ボタン」**を押して、録音を停止し、カセットテープの再生を停止します。

- ●録音中に**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、カセットテープの再生が進んだまま、録音を一時停止します。もう一度**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、録音が再開されます。その際トラックは区切られます。

トラックを区切る

- ●録音中に本体もしくはリモコンの**「TS(トラックセパレーション)ボタン」**を押すと、録音のトラックを区切ることができます。
  その際、カセットテープの再生もその瞬間停止し、間もなく次のトラックとして録音が再開すると、カセットテープの再生も再開されます。

注意

- ●録音は等速で行われます。
- ●録音は自動で停止しません。1トラックごとに区切りたい箇所で手動で録音を停止させてください。
- ●録音するCD-R/-RWの空き容量が無くなると、録音は中止されます。残量の確認をしてください。

本体正面

TS(トラックセパレーション)ボタン
停止(■)ボタン
録音(●)ボタン
再生/一時停止(▶II)ボタン

リモコン

停止(■)ボタン
TS(トラックセパレーション)ボタン
録音(●)ボタン
再生/一時停止(▶II)ボタン

本体右側面

外部入力から録音する

録音手順

① CD-R/-RWのセットが完了したら、外部入力(AUX)モードに切り替えているか確認してください。

---

② 本体もしくはリモコンの**「録音(●)ボタン」**を押して、録音のスタンバイ状態にします。

---

③ P.18の**「音声入力の接続をする」**を参照し、外部入力の準備をしてください。

---

④ 外部入力の準備ができたら、本体もしくはリモコンの**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、ディスプレイに録音経過時間が表示され、録音が開始されます。

●録音はすぐに始まりますので、外部入力の音声と、タイミングを合わせてください。
●外部入力の音声のよりも、録音のスタートを少し先にスタートすることをおすすめします。音声の頭が切れることなく録音することができます。

---

⑤ 本体もしくはリモコンの**「停止(■)ボタン」**を押して、録音を停止し、外部入力の再生を停止します。

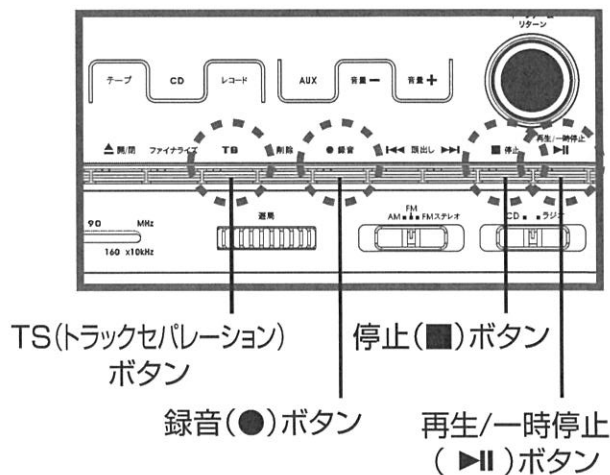
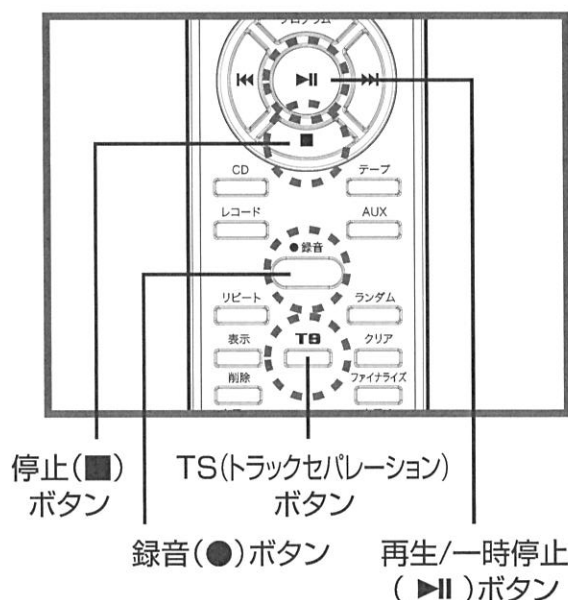
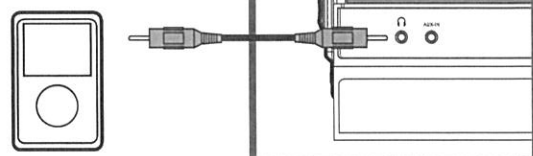
●録音中に**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、録音を一時停止します。
もう一度**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、録音が再開されます。その際トラックは区切られます。

トラックを区切る

●録音中に本体もしくはリモコンの**「TS(トラックセパレーション)ボタン」**を押すと、録音のトラックを区切ることができます。
その際、外部入力の音声は一瞬途切れ、次のトラックとして録音が再開すると同時に、再び音声入力されます。

注意

●録音は等速で行われます。
●録音は自動で停止しません。1トラックごとに区切りたい箇所で手動で録音を停止させてください。
●録音するCD-R/-RWの空き容量が無くなると、録音は中止されます。残量の確認をしてください。
●接続する外部機器によっては、ご使用になれない場合があります。

本体正面

リモコン

本体正面

CD-R/-RWのファイナライズ

○本製品で録音をしたCD-R/-RWを、他の機器で再生するには、ファイナライズする必要があります。
ファイナライズとは、ディスクを書き込み用ディスクから、読み取り専用ディスクとしての情報構造を完結させる処理のことを言います。

CDモードにする

- 本体の「**CD/ラジオ切り替えセレクター**」を「**CD**」に切り替えます。
- ディスプレイに「**PLS SELECT FUNCTION**」と表示されたら、本体もしくはリモコンの「**CDモードボタン**」を押します。

※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。

CD-R/-RWをセットする

① 本体もしくはリモコンの「**CDトレイ開閉ボタン**」を押して、CDトレイを開けます。

② レーベル面を上にした状態でCD-R/-RWをCDトレイのくぼみに沿って正確に置きます。

③ 本体もしくはリモコンの「**CDトレイ開閉ボタン**」を押して、CDトレイを閉めます。

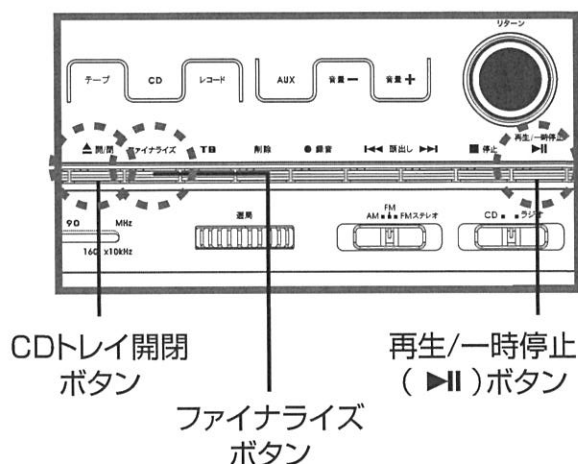
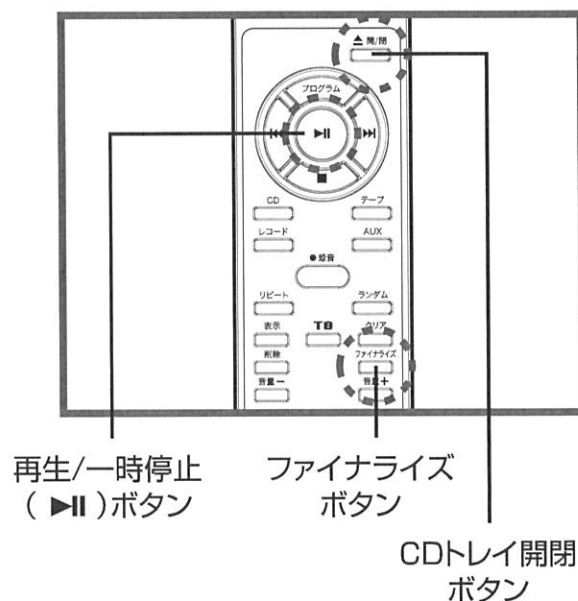
④ 自動的にCD-R/-RWが読み込まれ、ディスプレイに「**bUSY**」と表示され、読み込みが完了するとディスプレイに「**NO TOC**」と表示されます。

ファイナライズする

① ディスクの停止状態で、本体もしくはリモコンの「**ファイナライズボタン**」を押すと、ディスプレイに「FIn-d」と表示されます。

② 本体もしくはリモコンの「**再生/一時停止(▶II)ボタン**」を押すと、ディスプレイに「bUSY」と表示され、ファイナライズが開始されます。

③ ファイナライズが終了すると、自動的にCDトレイが開き、ファイナライズは完了となります。

本体正面

リモコン

注意

- ファイナライズの作業は、ディスクの記録内容などによって時間が異なります。場合によっては15分程度かかることもあります。
- ファイナライズ中は、ボタン操作を行ったり、電源をオフにしたり、AC電源コードを抜いたりしないでください。本製品の故障の原因となります。
- ファイナライズしたCD-Rはもう一度記録することができません。
- ファイナライズしたCDでも機器によっては、ディスクの種類や特性、互換性などにより、再生できない場合があります。

CD-RWのファイナライズ解除

○本製品でファイナライズしたCD-RWを、ファイナライズして再び書き込み用ディスクに戻し、録音ができる状態にすることができます。
※CD-Rはファイナライズ解除することができません。

CDモードにする

●本体の**「CD/ラジオ切り替えセレクター」**を**「CD」**に切り替えます。
●ディスプレイに**「PLS SELECT FUNCTION」**と表示されたら、本体もしくはリモコンの**「CDモードボタン」**を押します。
※他のモードを選択している場合はこの操作を行ってください。

CD-RWをセットする

① 本体もしくはリモコンの**「CDトレイ開閉ボタン」**を押して、CDトレイを開けます。

② レーベル面を上にした状態でCD-RWをCDトレイのくぼみに沿って正確に置きます。

③ 本体もしくはリモコンの**「CDトレイ開閉ボタン」**を押して、CDトレイを閉めます。

④ 自動的にCD-RWが読み込まれ、ディスプレイに「bUSY」と表示され、読み込みが完了するとディスプレイにディスク情報が表示されます。

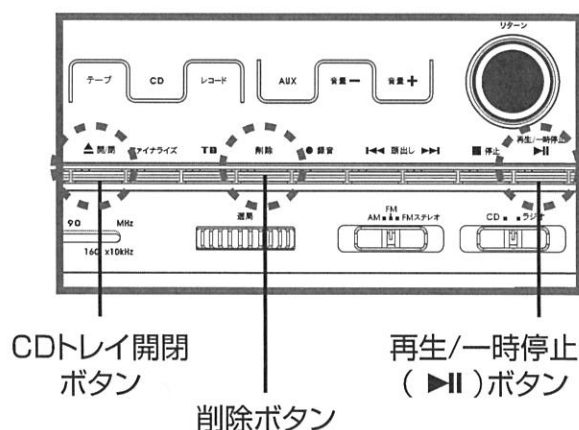
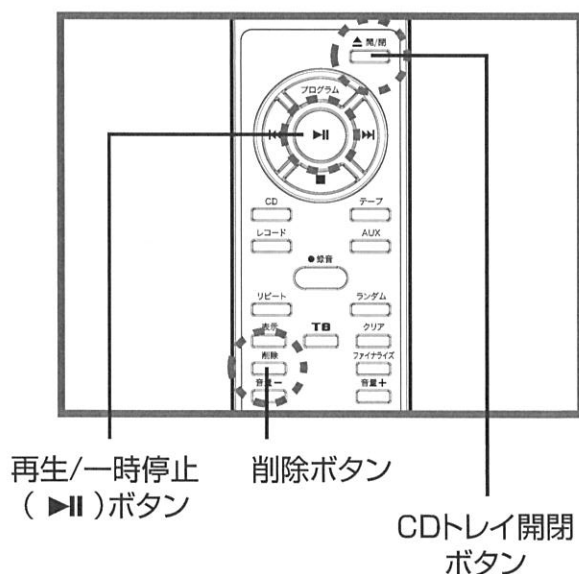
本体正面

リモコン

ファイナライズ解除する

① ディスクの停止状態で、本体もしくはリモコンの**「削除ボタン」**を押すと、ディスプレイに「UnFIn-d」と表示されます。

② 本体もしくはリモコンの**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、ディスプレイに「bUSY」と表示され、ファイナライズの解除が開始されます。

③ ファイナライズの解除が終了すると、ディスクが読み込まれ、ディスプレイにディスク情報と「NO TOC」が表示されます。

注意

●ファイナライズの解除の作業は、ディスクの記録内容などによって時間が異なります。場合によっては15分程度かかることもあります。
●ファイナライズの解除中は、ボタン操作を行ったり、電源をオフにしたり、AC電源コードを抜いたりしないでください。本製品の故障の原因となります。

CD-RWのトラック削除

○本製品で録音したCD-RWのトラックを、削除することができます。
※ファイナライズしたCD-RWはトラックの削除をすることはできません。

CD-RWの準備

● P.39などを参照し、CDモードへの切り替え、CD-RWのセットを行ってください。

最後のトラックの削除

① ディスクの停止状態で、本体もしくはリモコンの**「削除ボタン」**を押すと、ディスプレイに「ER」の表示と最後のトラックの番号が表示されます。

② 本体もしくはリモコンの**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、ディスプレイに「bUSY」と表示され、最後のトラックの削除が開始されます。

③ トラックの削除が終了すると、ディスクが読み込まれ、ディスプレイにディスク情報と「NO TOC」が表示されます。

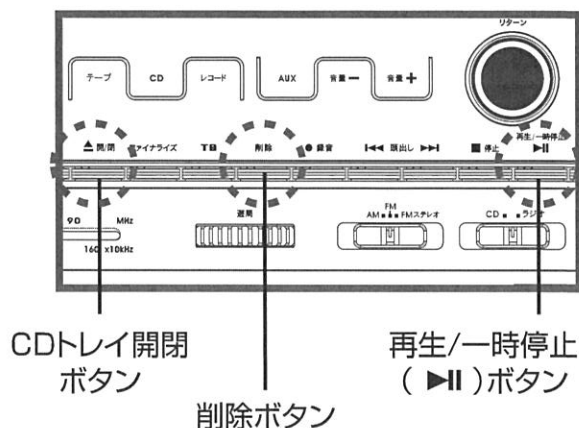
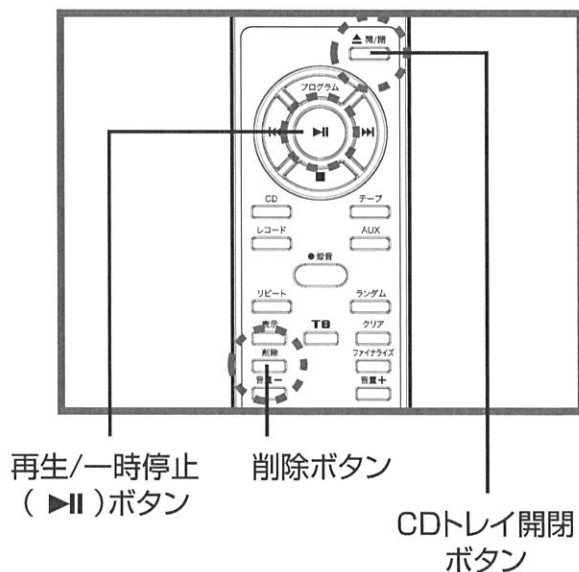
全トラックの削除

① ディスクの停止状態で、本体もしくはリモコンの**「削除ボタン」**を2回押すと、ディスプレイに「ER ALL」と表示されます。

② 本体もしくはリモコンの**「再生/一時停止(▶II)ボタン」**を押すと、ディスプレイに「bUSY」と表示され、全てのトラックの削除が開始されます。

③ 全てのトラックの削除が終了すると、ディスクが読み込まれ、ディスプレイに「000 00:00」と「NO TOC」が表示されます。

注意

●全トラックの削除の作業は、ディスクの記録内容などによって時間が異なります。場合によっては15分程度かかることもあります。
●ファイルの削除中は、ボタン操作を行ったり、電源をオフにしたり、AC電源コードを抜いたりしないでください。本製品の故障の原因となります。
●他の機器で書き込みを行ったCD-RWのトラックの削除は対応していません。

トラブルシューティング

●故障かとお思いのときは、アフターサービスをご依頼になる前に、次の点をお調べください。

電源が入らない	●電源プラグが抜けていませんか。電源プラグの差し込みを確認してください。
音声が出ない	●電源プラグが抜けていませんか。電源プラグの差し込みを確認してください。 ●スピーカーが正しく接続されているか確認をしてください。 ●音量が最小になっていませんか。音量を上げてください。 ●ヘッドフォン/イヤフォンを接続していると、本製品のスピーカーからは音が出ません。ヘッドフォン/イヤフォンが接続されていないか確認をしてください。
ノイズが入る	●テレビなどの強い磁気を帯びた機器などの影響を受けている可能性があります。テレビなどの機器と本製品を離して設置してください。
音が飛ぶ	●本製品に振動が加わったり、ディスクに大きな傷があったり、汚れがあったりすると音飛びすることがあります。
リモコンが働かない	●電池の極性(+/−)の向きが表示通りに正しくセットされているか確認してください。 ●電池を2本とも新しいものと交換してみてください。(種類の異なる電池を使用したり、新しい電池と古い電池を混用したりしないでください。) ●リモコンと本体の距離が離れすぎていないか確認してください。 ●リモコンと本体の間に障害物があると、リモコンの信号が本体に届かないことがあります。 ●本体のリモコンの信号の受光部に強い光などが当たっていないか確認してください。
本製品が正しく動作しない	●静電気やノイズなどの影響により、本製品が動作しなくなる可能性があります。電源のオン/オフをしてみてください。 ●もしくは、電源プラグを抜いて、もう1度差し込み直してみてください。
再生されない	●ディスクの表裏が正しくセットされているか確認してください。 ●ディスクがひどく汚れていたり、損傷していないか確認してください。
再生されるまで時間がかかる	●トラック数が多いと読み込みに時間がかかることがあります。 ●本製品は精密機械ですので、処理によって読み込みや立ち上がりに時間がかかる場合がありますが、機器の故障ではございません。
トラックが順番通りに再生されない	●リピート再生、ランダム再生など設定がされている可能性があります。設定の解除をしてください。
外部機器から音が出ない	●外部機器と本体が正しく接続されているか確認してください。 ●外部機器の電源がオンになっているか確認してください。 ●その他、「音声が出ない」の項目を参照してください。

トラブルシューティング

レコードの音がおかしい、またはノイズがある	●レコードの回転数が適しているか確認してください。 ●レコード針が摩耗していないか確認してください。 ●レコード針の針先にほこりがたまっていないか確認してください。 ●ハウリングのような音がする場合、本体の設置の仕方、部屋の状態により発生している可能性があります。本体の設置位置や音量を調整してみてください。
レコードの再生中に針飛びを起こす	●床の振動が本体に伝わっていないか確認してください。 ●レコードの溝に傷がついていないか確認してください。 ●本体が水平に設置されているか確認してください。 ●レコードが反っていないか確認してください。
カセットテープが正しく再生されない	●テープにたるみがないか確認してください。早送りのすぐあとに取り出しを行ったり、無理に扱うとテープがたるんだり、損傷する場合があります。 ●カセットテープの面の向きを確認してください。再生したい面を上にしても再生されない場合は、テープがすでに巻き切れていないか確認してください。
FM/AMラジオが聴けない。もしくはノイズが多い	●アンテナの位置を調整してみてください。 ●コンクリートの壁などで電波が遮断されているとラジオを受信しにくくなります。 ●「FMステレオ」から「FM(モノラル)」に切り替えてみてください。 ●近くに自動車が走行していたり、飛行機が飛行していると雑音が入ることがあります。 ●テレビやパソコンなどの機器から離して設置してください。

主な仕様

再生可能メディア	レコード・CD・CD-R/-RW(CD-DAフォーマット)・カセットテープ
録音可能メディア	CD-R/-RW
録音フォーマット	CD-DA
録音速度	1倍速
レコード駆動方式	ベルトドライブ式
レコード回転数	33回転/45回転
レコードカートリッジ	サファイア針タイプ
ラジオ受信方式	アナログチューニング方式
ラジオ受信周波数帯	AM：540〜1600KHz　FM：76.0〜90MHz
ディスプレイ	ELバックライト式LCD
電源	AC100V　50/60Hz
消費電力	38W
実用最大出力	4W (2W+2W)
スロット	カセットテープシングルスロット
入力端子／出力端子	本体正面：音声入力端子(3.5mmミニジャック)／ ヘッドフォン端子(3.5mmミニジャック) 本体背面：スピーカー端子／音声出力端子(RCAピンプラグ)
本体寸法	(W)約428mm×(D)約370mm×(H)約168mm
本体重量	約5.6kg
スピーカー寸法	(W)約146mm×(D)約142mm×(H)約226mm
スピーカー重量	約1.9kg×2
使用環境	温度：10〜35℃　湿度：55〜75%(結露なきこと)

■本製品の仕様は都合により記載内容を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
※本製品はコピーコントロールCDなどの特殊ディスクの再生は保証しません。
※本製品はCD-DAフォーマットで記録された音楽用CD-R/-RWの再生に対応していますが、記録状態やディスクの種類によっては再生できない場合があります。

アフターサービスと保証書

保証書(裏表紙)

裏表紙に添付しています。お買い上げ日と販売店名の記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
保証書をよくお読みになり、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から1年間となります。

修理を依頼されるとき

取扱説明書の内容をご確認いただき、故障が疑われる場合には販売店、またはサポートセンターにお問い合わせください。

■保証期間中(お買い上げ日から1年未満)の修理
保証書の規定により、無料で修理致します。商品に保証書を添えてお買い上げの販売店、またはサポートセンターまでご相談ください。

■保証期間が過ぎている(お買い上げ日から1年以上)の修理
修理により使用できる製品は、お客様のご要望により有料で修理致します。お買い上げの販売店、またはサポートセンターまでご相談ください。

補修料金のしくみ

補修料金は技術料(故障した商品の修理および部品交換などにかかる作業料金)と部品代(修理に使用した部品の代金)などで構成されています。

補修部品について

補修部品は部品共通化のため、一部仕様や外観色などが変更となる場合があります。
お客様ご自身での修理は大変危険です。絶対に分解したり手を加えたりしないでください。

アフターサービスについてご不明な場合は、サポートセンターまでお問い合わせください。

サポートセンター

お問い合わせ先

TEL : 03-5614-4900　FAX : 03-5614-4391

受付時間: 午前10時～午後5時(土·日·祝祭日、年末年始および弊社指定休業日を除く)

E-mailでのお問合せ : info@aucsale.com

修理センター

〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 646-2
株式会社オークセール
サポートグループ返品·修理センター

サポートセンターからのお願い

・通話中の場合、しばらく経ってからおかけ直しください。
・サポートセンターおよび修理センターへの電話番号／FAX番号、住所は予告なく変更することがあります。予めご了承ください。